

イナバガレージ 連続型 組立説明書

このたびは、イナバガレージ「ガレーディア」をお買い上げくださり誠にありがとうございました。

私たちは、この製品の開発にあたって「良いものを安く」をモットーに、苦心して作り上げました。

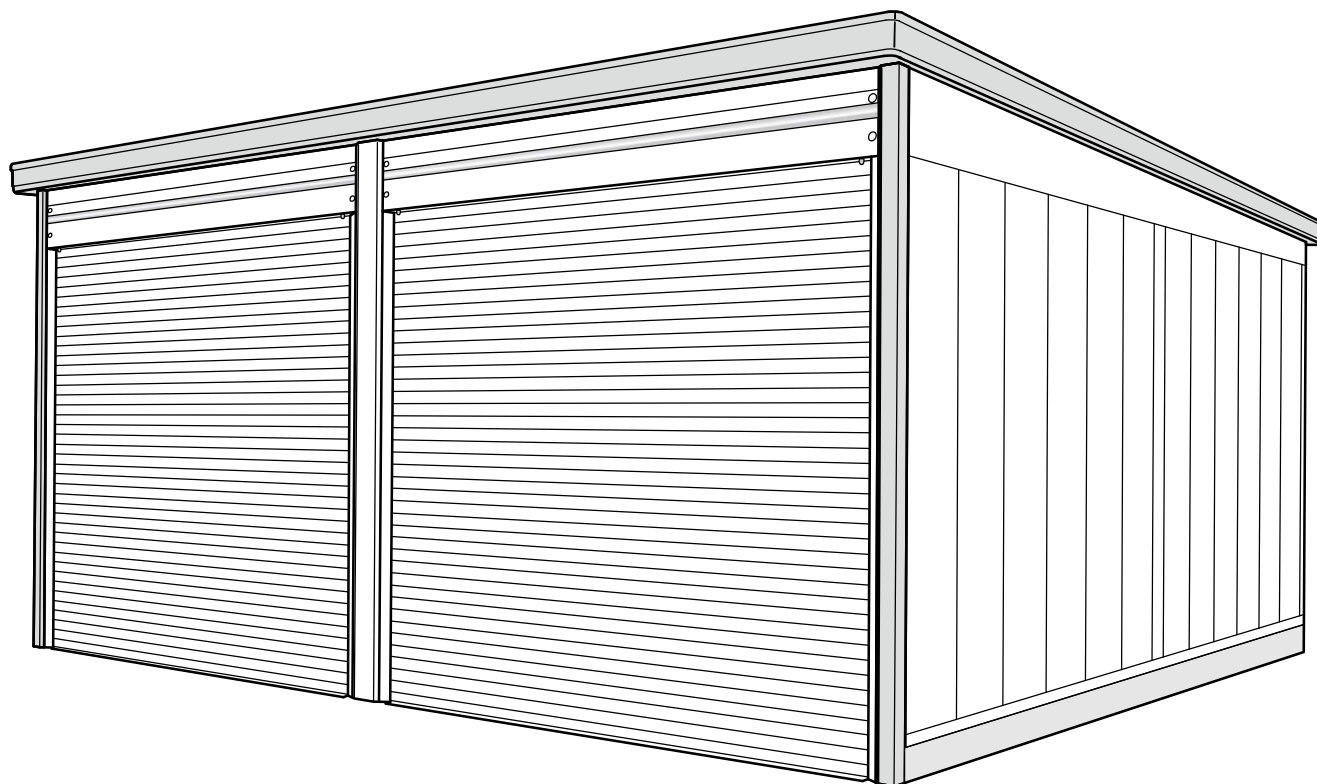
どうぞ末永くご愛用いただきますようお願い申し上げます。

この製品の組み立てについてご説明いたしますので、かならずお読みください。

組立説明書の基礎図・アンカー工事については標準的施工方法とします。

異なる施工を行う場合は、予め当社にご相談ください。

なお、ご使用にあたっての注意については、取扱説明書・製品保証書をお読みください。



当該機種には、製品及び施工の瑕疵並びにその瑕疵に起因する損害に係る優良住宅部品瑕疵担保責任保険・損害賠償責任保険が付されています。組立説明書等で指示された施工方法を逸脱しない方法で施工を行った者は、上記保険の被保険者として、施工に関する瑕疵担保責任及び施工の瑕疵に起因する損害賠償責任を負う際には保険金の請求ができます。詳細は、当社及び一般財団法人ベターリビングのホームページをご参照ください。

(<http://www.inaba-ss.co.jp/> または <http://www.cbl.or.jp/>)

注意事項

●設置場所について

1. 崖の縁や屋上など、安全の確認の出来ない場所への設置は避けてください。
2. 非常時の避難通路となるような場所には設置しないでください。
3. 家からの雪が直接屋根に落ちてくる場所への設置は避けてください。
4. 家の屋根からまとまった雨水が直接屋根や壁に落ちないように配慮してください。
5. 強度の関係上、連棟数に応じて間仕切壁が必要となる場合があります。
(カタログ等でご確認ください)

●組み立てについて

1. アンカー工事を必ず行ってください。
2. 強風時などの天候の悪い日の組み立ては避けてください。
3. 組立や30kg以上の部材の運搬等は、2人以上で行ってください。
4. ヘルメット・手袋・長袖シャツ等の保護具や脚立等を使用し、安全確認の上作業してください。
5. 組立中は部材の転倒防止のために、つかい棒やロープ等でしっかりと固定してください。
6. 組立途中で放置しないでください。

組立順序のご説明

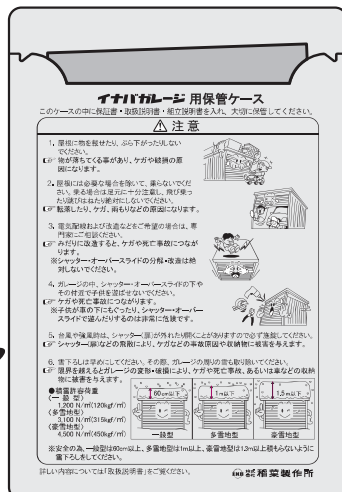
組立にあたって、部品の共通性・互換性を持たせるために、取付穴が余分にあげてあります。相手に穴のない所はボルト締めする必要はありません。

各取付穴は、組立を容易にするために余裕を持たせてあります。片寄った締め方をすると、部品が入らなかつたり穴が合わない場合がありますので、この場合はボルトをゆるめ調整してください。

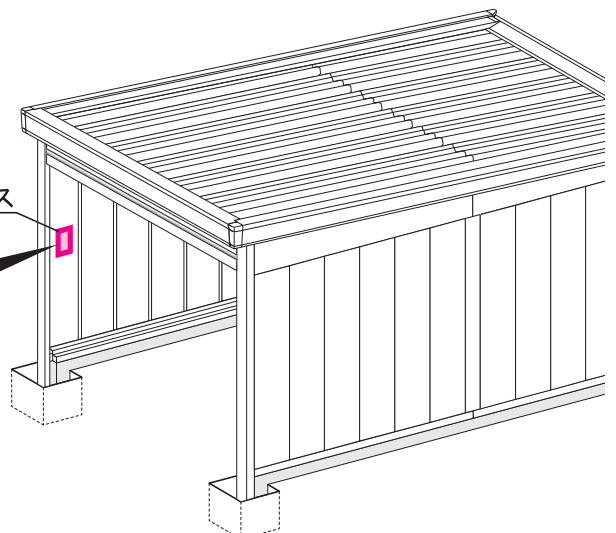
電動工具を使用する際は、ネジ山が破損し空回りするおそれがありますので、締めすぎにご注意ください。

組立が完了したら

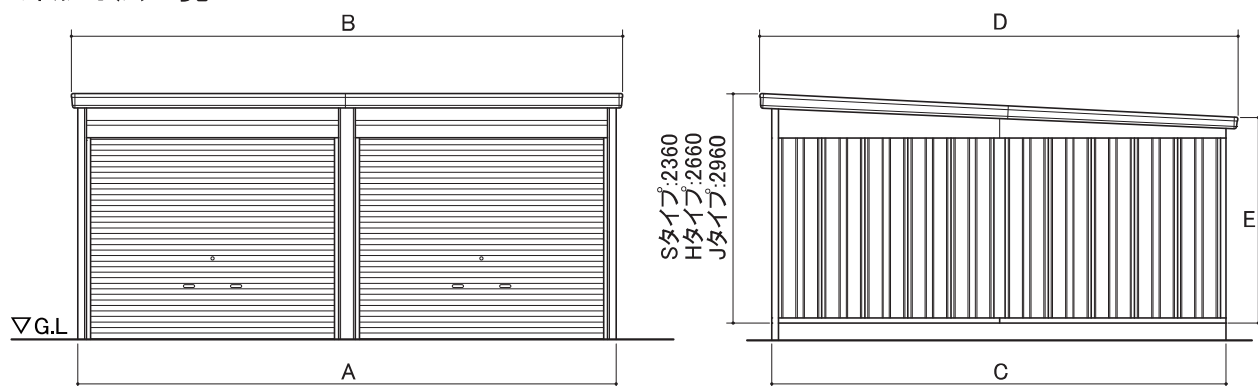
保証書・取扱説明書・組立説明書を保管ケースに入れて、庫内シャッター横の壁パネル面(高さ1.5m位)に貼り付けてください。



保管ケース



■外形寸法一覧



機 種	A	B	C	D	E
GRN-2142SL-N	2130xN	2130xN+160	4275	4555	2138
GRN-2142HL-N					2438
GRN-2642SL-N	2630xN	2630xN+160			2138
GRN-2642HL-N					2438
GRN-3142SL-N	3130xN	3130xN+160			2138
GRN-3142HL-N					2438
GRN-3642SL-N	3630xN	3630xN+160	4775	5055	2138
GRN-3642HL-N					2438
GRN-2147SL-N	2130xN	2130xN+160			2108
GRN-2147HL-N					2408
GRN-2647SL-N	2630xN	2630xN+160			2108
GRN-2647HL-N					2408
GRN-3147SL-N	3130xN	3130xN+160	5275	5555	2108
GRN-3147HL-N					2408
GRN-3647SL-N	3630xN	3630xN+160			2108
GRN-3647HL-N					2408
GRN-2652SL-N	2630xN	2630xN+160			2084
GRN-2652HL-N					2384
GRN-3152SL-N	3130xN	3130xN+160	5775	6055	2084
GRN-3152HL-N					2384
GRN-3652SL-N	3630xN	3630xN+160			2084
GRN-3652HL-N					2384
GRN-2657SL-N	2630xN	2630xN+160			2108
GRN-2657HL-N					2408
GRN-2657JL-N			6275	6555	2708
GRN-3157SL-N	3130xN	3130xN+160			2108
GRN-3157HL-N					2408
GRN-3157JL-N					2708
GRN-3657SL-N	3630xN	3630xN+160			2108
GRN-3657HL-N					2408
GRN-2662SL-N	2630xN	2630xN+160	6275	6555	2084
GRN-2662HL-N					2384
GRN-2662JL-N					2684
GRN-3162SL-N	3130xN	3130xN+160			2084
GRN-3162HL-N					2384
GRN-3162JL-N					2684
GRN-3662SL-N	3630xN	3630xN+160			2084
GRN-3662HL-N					2384
GRN-3662JL-N					2684

機 種	A	B	C	D	E		
GRN-2621(2126)・52S	4760	4920	5275	5555	2084		
GRN-2621(2126)・52H					2384		
GRN-3121(2131)・52S	5260	5420			2084		
GRN-3121(2131)・52H					2384		
GRN-3126(2631)・52S	5760	5920			2084		
GRN-3126(2631)・52H					2384		
GRN-3126(2631)・57S	5760	5920	5775	6055	2108		
GRN-3126(2631)・57H					2408		
GRN-3126(2631)・57J					2708		
GRN-3626(2636)・57S	6260	6420			2108		
GRN-3626(2636)・57H					2408		
GRN-3626(2636)・57J					2708		
GRN-3631(3136)・57S	6760	6920			2108		
GRN-3631(3136)・57H					2408		
GRN-3631(3136)・57J					2708		
GRN-3126(2631)・62S	5760	5920			6275	6555	2084
GRN-3126(2631)・62H							2384
GRN-3126(2631)・62J							2684
GRN-3626(2636)・62S	6260	6420	2084				
GRN-3626(2636)・62H			2384				
GRN-3626(2636)・62J			2684				
GRN-3631(3136)・62S	6760	6920	2084				
GRN-3631(3136)・62H			2384				
GRN-3631(3136)・62J			2684				

[単位 : mm]

1. 基礎施工

入口部の基礎高さが、地盤面(G.L)かつ土間面(F.L)のどちらからも**50～200mm(高基礎仕様の場合:200～500mm)**の範囲に納まるように、水盛り・遣り方にしながら根伐・砂利等で地固めをし、下図のように基礎を作ります。
※この説明書における基礎は、積雪荷重1200N/m²(一般型)と、4500N/m²(豪雪型)の標準施工図面です。

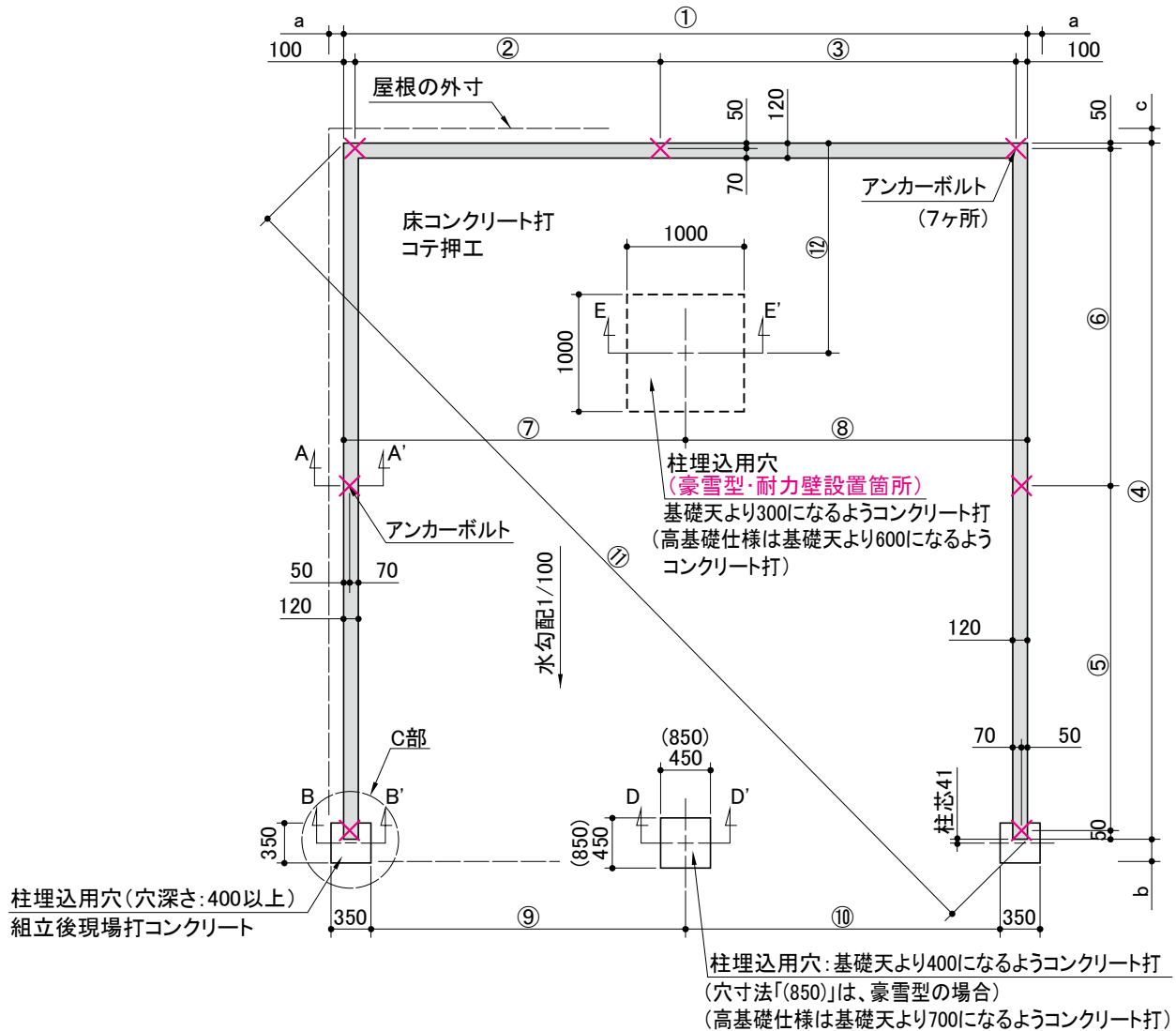
設置場所や、地域の実情にあった基礎工事をしてください。
※軟弱な地盤や寒冷地等は地域の実情に合わせた基礎にしてください。

安全確保のため、転倒防止工事には十分注意してください。

■基礎施工図[単位:mm]

※a, b, cは屋根の出幅です。

a=70, b=221, c=130



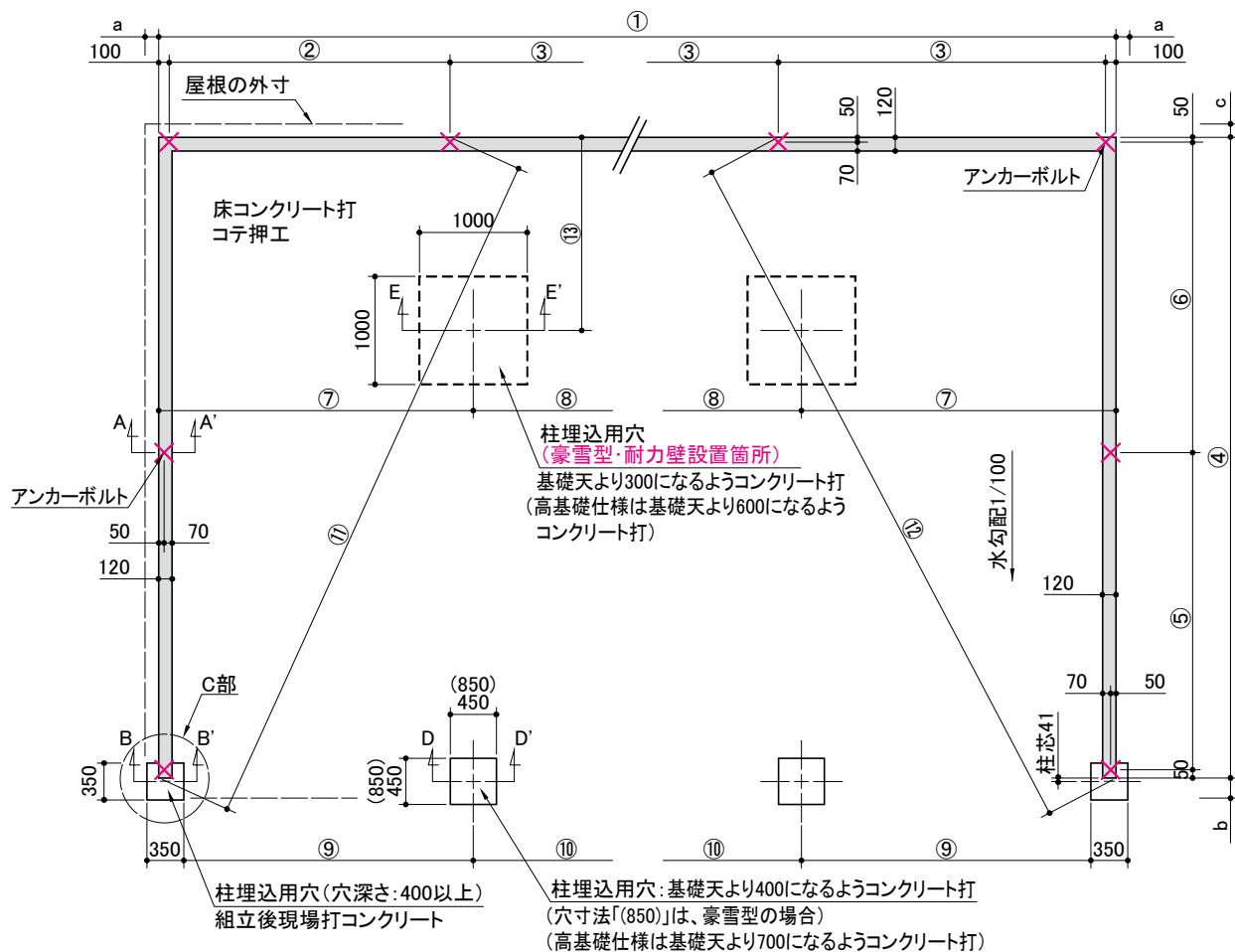
△注意
アンカーボルトは布基礎芯ではありません。

×・・・アンカーボルト位置を示す

■基礎寸法一覧[単位:mm]

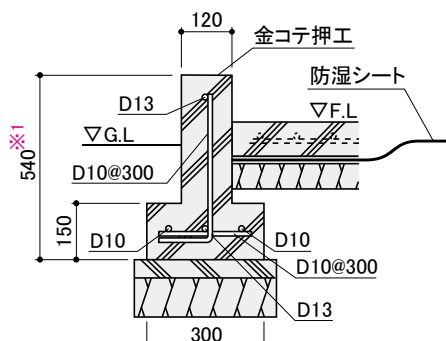
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
GRN-2142L-2型	4280	1950	2130	4204	2597	1507	2140		1905		5999.3	852
GRN-2642L-2型	5280	2450	2630				2640		2405		6749.2	
GRN-3142L-2型	6280	2950	3130				3140		2905		7557.2	
GRN-3642L-2型	7280	3450	3630				3640		3405		8406.7	
GRN-2147L-2型	4280	1950	2130	4704		2007	2140		1905		6359.7	1438
GRN-2647L-2型	5280	2450	2630				2640		2405		7071.5	
GRN-3147L-2型	6280	2950	3130				3140		2905		7846.4	
GRN-3647L-2型	7280	3450	3630				3640		3405		8667.5	
GRN-2652L-2型	5280	2450	2630	5204		2507	2640		2405		7413.5	1981
GRN-3152L-2型	6280	2950	3130				3140		2905		8156.0	
GRN-3652L-2型	7280	3450	3630				3640		3405		8948.7	
GRN-2657L-2型	5280	2450	2630	5704	2640		2405		7772.6			
GRN-3157L-2型	6280	2950	3130		3140		2905		8483.8			
GRN-3657L-2型	7280	3450	3630		3640		3405		9248.5			
GRN-2662L-2型	5280	2450	2630	6204	3007	2640		2405		8146.7	2356	
GRN-3162L-2型	6280	2950	3130			3140		2905		8827.7		
GRN-3662L-2型	7280	3450	3630			3640		3405		9564.9		
GRN-2621・52型	4780	2450	2130	5204	2597	2507	2640	2140	2405	1905	7066.1	1981
GRN-2126・52型		1950	2630				2140	2640	1905	2405		
GRN-3121・52型	5280	2950	2130				3140	2140	2905	1905	7413.5	
GRN-2131・52型		1950	3130				2140	3140	1905	2905		
GRN-3126・52型	5780	2950	2630				3140	2640	2905	2405	7777.5	
GRN-2631・52型		2450	3130	2640	3140		2405	2905				
GRN-3126・57型		2950	2630	3140	2640		2905	2405	8120.6			
GRN-2631・57型		2450	3130	2640	3140		2405	2905				
GRN-3626・57型	6280	3450	2630	5704	3097		3640	2640	3405	2405	8483.8	
GRN-2636・57型		2450	3630				2640	3640	2405	3405		
GRN-3631・57型	6780	3450	3130				3640	3140	3405	2905	8860.2	
GRN-3136・57型		2950	3630				3140	3640	2905	3405		
GRN-3126・62型	5780	2950	2630			6204	3007	3140	2640	2905	2405	8479.3
GRN-2631・62型		2450	3130	2640				3140	2405	2905		
GRN-3626・62型	6280	3450	2630	3640				2640	3405	2405	8827.7	
GRN-2636・62型		2450	3630	2640				3640	2405	3405		
GRN-3631・62型	6780	3450	3130	3640				3140	3405	2905	9190.1	
GRN-3136・62型		2950	3630	3140				3640	2905	3405		

3 連続以上の基礎図



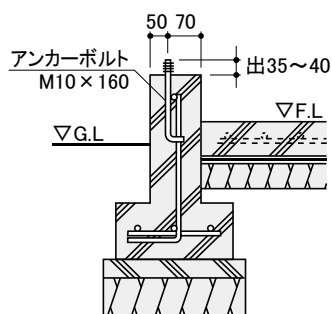
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
GRN-2142L-N型	Nx2130+20	1950	2130	4204	2597	1507	2140	2130	1905	2130	4677.2	4758.8	852
GRN-2642L-N型	Nx2630+20	2450	2630				2640	2630	2405	2630	4916.9	5012.6	
GRN-3142L-N型	Nx3130+20	2950	3130				3140	3130	2905	3130	5193.9	5301.6	
GRN-3642L-N型	Nx3630+20	3450	3630				3640	3630	3405	3630	5502.4	5620.2	
GRN-2147L-N型	Nx2130+20	1950	2130	4704		2007	2140	2130	1905	2130	5131.3	5205.8	1438
GRN-2647L-N型	Nx2630+20	2450	2630				2640	2630	2405	2630	5350.7	5438.8	
GRN-3147L-N型	Nx3130+20	2950	3130				3140	3130	2905	3130	5606.3	5706.2	
GRN-3647L-N型	Nx3630+20	3450	3630				3640	3630	3405	3630	5893.2	6003.4	
GRN-2652L-N型	Nx2630+20	2450	2630	5204		2507	2640	2630	2405	2630	5795.2	5876.6	1981
GRN-3152L-N型	Nx3130+20	2950	3130				3140	3130	2905	3130	6031.9	6124.9	
GRN-3652L-N型	Nx3630+20	3450	3630				3640	3630	3405	3630	6299.5	6402.7	
GRN-2657L-N型	Nx2630+20	2450	2630	5704			2640	2630	2405	2630	6248.0	6323.6	
GRN-3157L-N型	Nx3130+20	2950	3130				3140	3130	2905	3130	6468.2	6555.0	
GRN-3657L-N型	Nx3630+20	3450	3630				3640	3630	3405	3630	6718.5	6815.3	
GRN-2662L-N型	Nx2630+20	2450	2630	6204	3097	3007	2640	2630	2405	2630	6707.6	6778.1	2356
GRN-3162L-N型	Nx3130+20	2950	3130				3140	3130	2905	3130	6913.2	6994.5	
GRN-3662L-N型	Nx3630+20	3450	3630				3640	3630	3405	3630	7147.9	7239.0	

■基礎断面図[単位:mm]



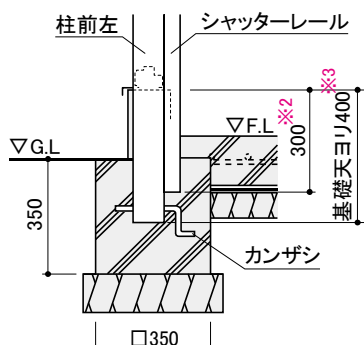
基礎天は面取しないでください。

基礎断面

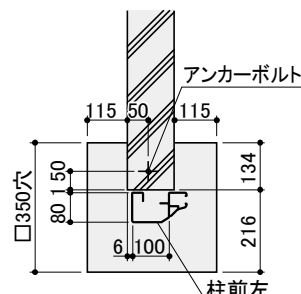


アンカーボルトはM12でも可

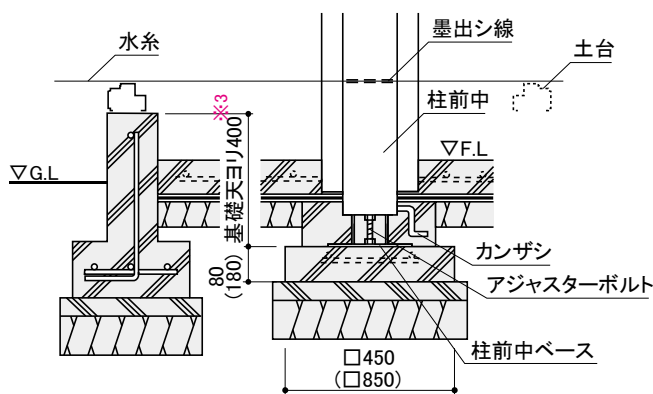
A-A' 断面



B-B' 断面

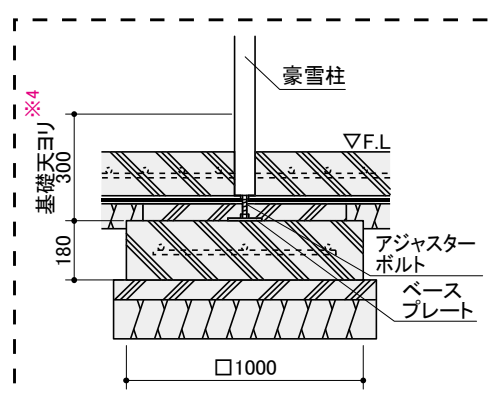


C部

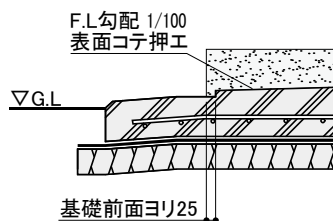


() 寸法は豪雪型の場合

D-D' 断面



E-E' 断面 (豪雪型・耐力壁設置箇所のみ)



入口床面コンクリート仕上断面

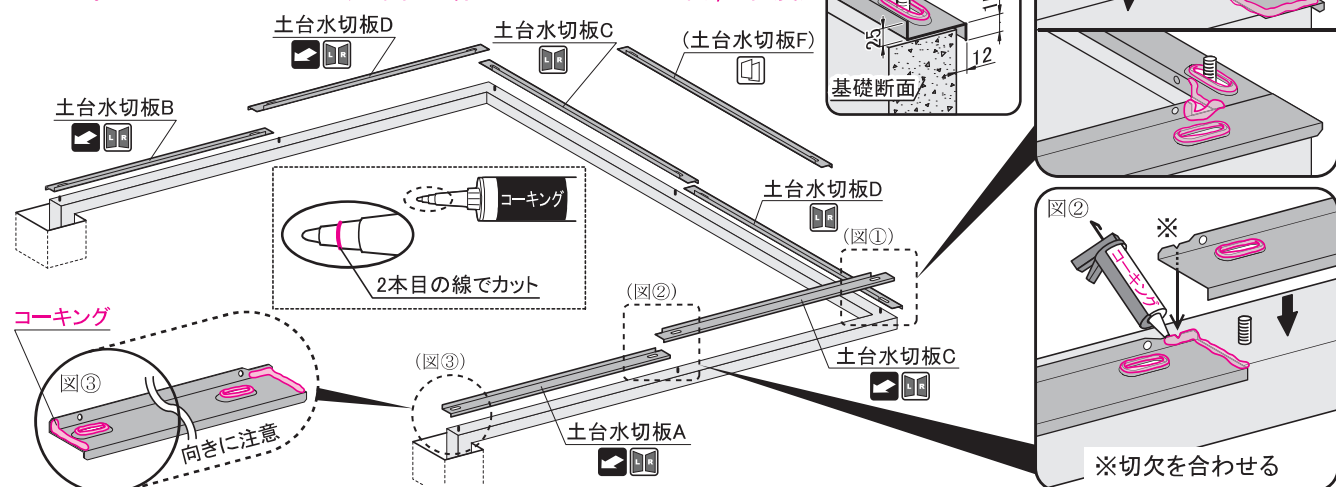
※1~4: 高基礎仕様の場合、寸法が変わります。
 ※1: 基礎高さに応じて変更してください。
 ※2: 300→600
 ※3: 400→700
 ※4: 300→600

左右の向きに注意してください。
 左右共通の部材です。
 上下の向きに注意してください。
 前後の向きに注意してください。

2. 土台水切板の取付

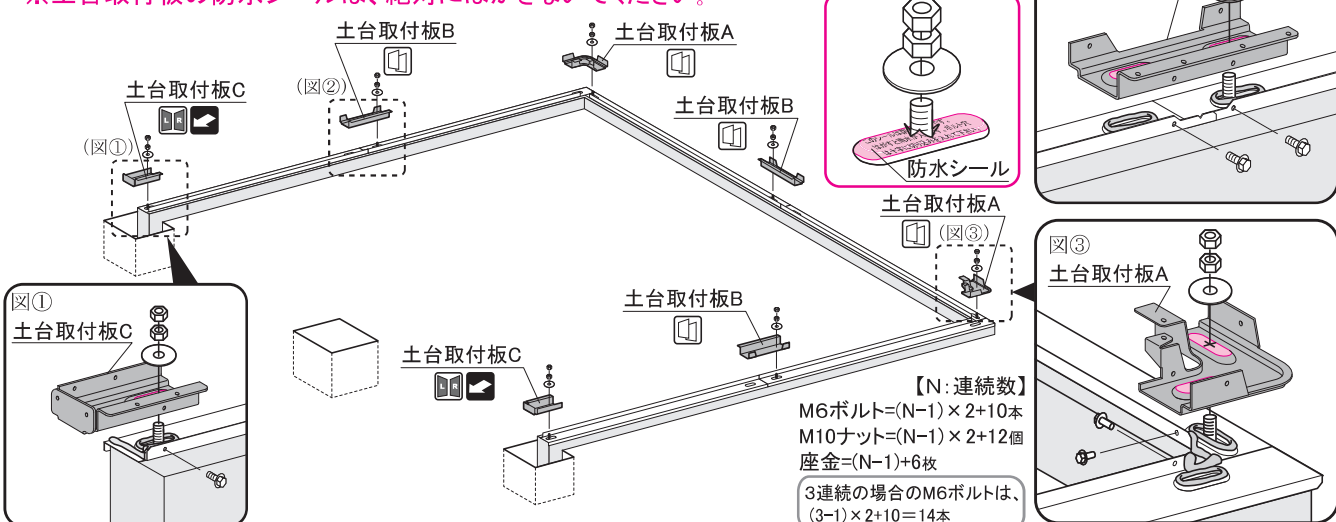
土台水切板を基礎に乗せ、土台水切板の長丸部と重なり部に右図のようにコーキングします。
 【3連続以上の中間部には、土台水切板Fを使います。】

※内部に雨水が浸入する恐れがありますので、必ずコーキングをしてください。コーキングのノズルは、2本目の線でカットしてください。(φ8程度)



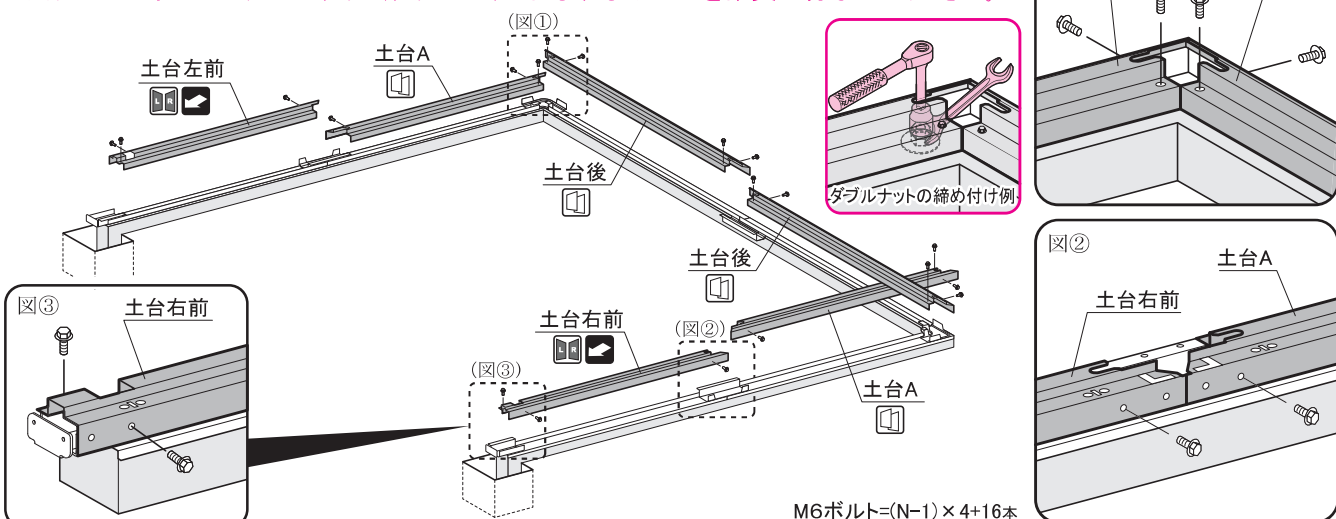
3. 土台取付板の取付

土台取付板A・B・Cの防水シールに十字の切り込みを入れアンカーボルトを通します。
 土台水切板にM6ボルトで取り付け、M10ナットと座金でアンカーボルトに固定します。
 ※土台取付板の防水シールは、絶対にはがさないでください。



4. 土台の取付

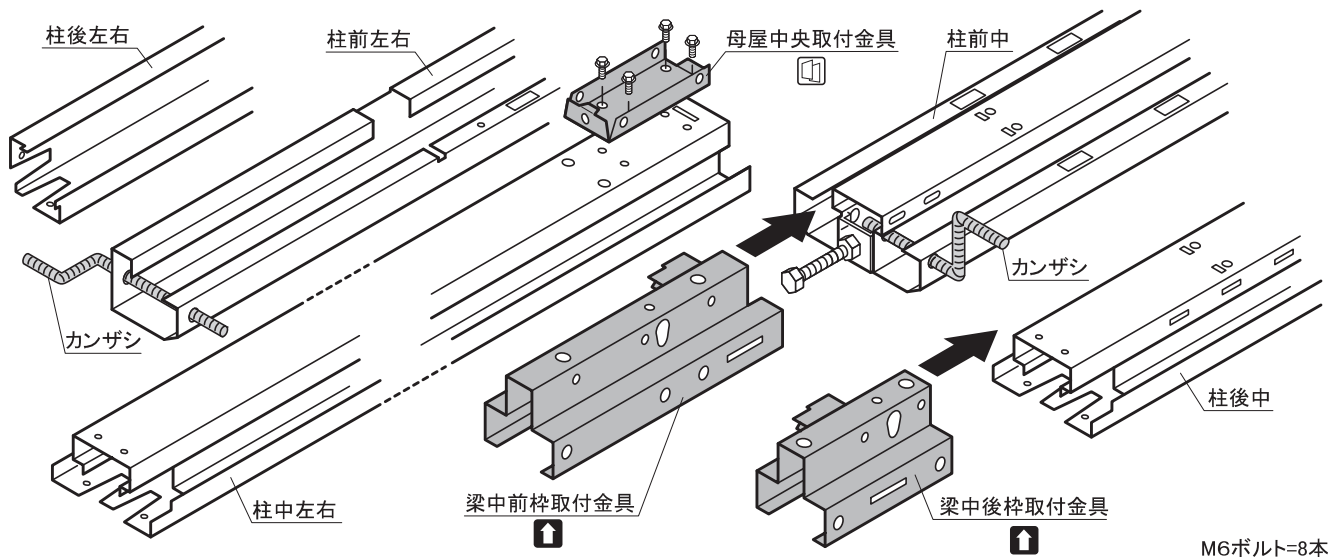
土台A、土台後、土台左右前を土台取付板にかぶせ、M6ボルトで取り付けます。
 ※土台Aと土台後は同形状です。部材印を確認して組み立てをしてください。
 ※アンカーボルトはダブルナット(ナット2つ)によるゆるみ止めを確実に行ってください。



左右の向きに注意してください。
 左右共通の部材です。
 上下の向きに注意してください。
 前後の向きに注意してください。

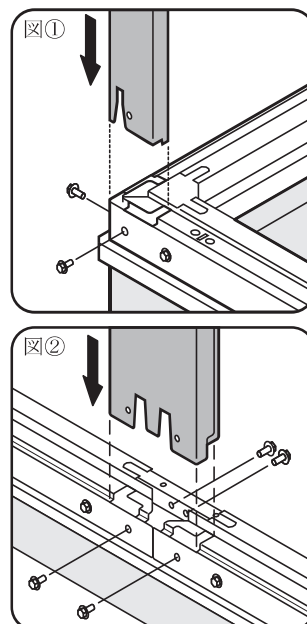
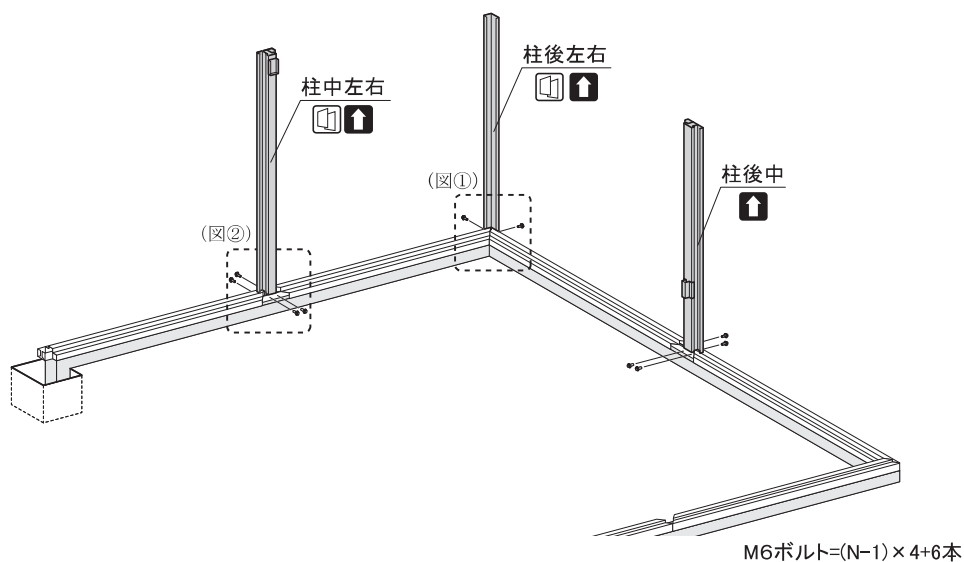
5. 柱部品の取付

柱前左右・中にカンザシを差し込み、柱中左右に母屋中央取付金具をM6ボルトで取り付けます。次に柱前中・柱後中に梁中前・後枠取付金具を下からセットします。



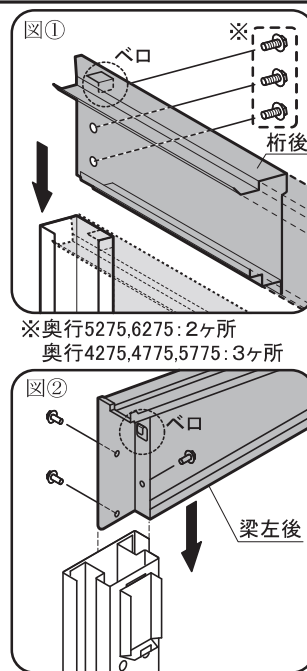
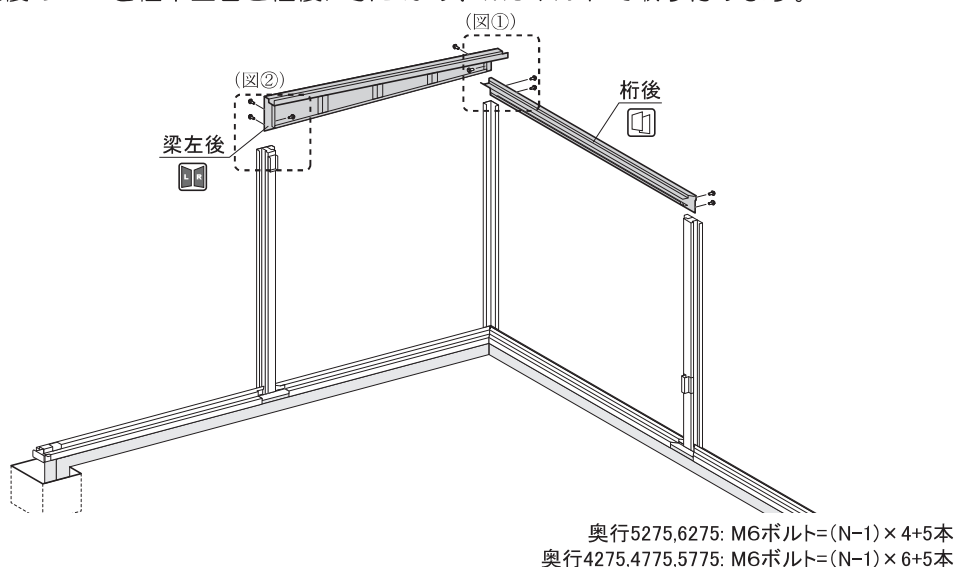
6. 柱後左・柱後中・柱中左右の取付

柱後左右、柱後中、柱中左右を土台にM6ボルトで取り付けます。



7. 桁後・梁左後の取付

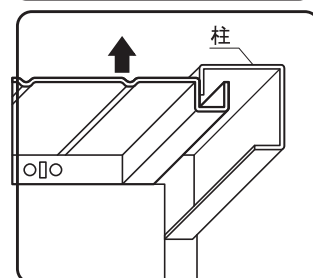
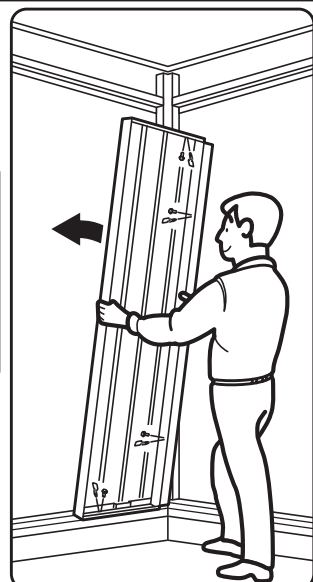
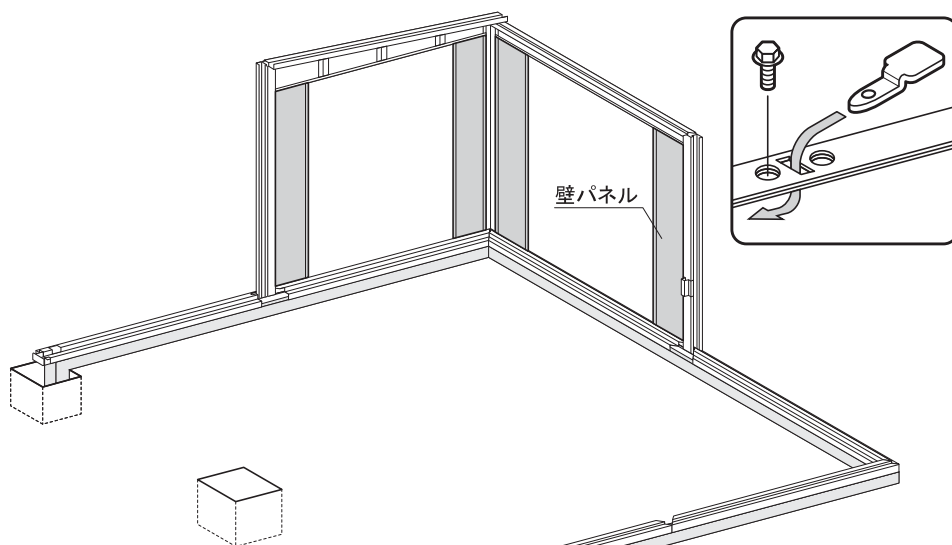
桁後のペロを柱後に引っかけ、M6ボルトで取り付けます。梁左後のペロを柱中左右と柱後に引っかけ、M6ボルトで取り付けます。



8. 壁パネルの取付

壁パネルは、本文中で指示があるたびに下図のように内側から各柱にM6ボルトとネジ板で取り付けます。(ゆがみや倒れの防止になります。)

※指示された壁パネルの位置に別売の壁面扉等が付く場合は、壁の取付は不要です。

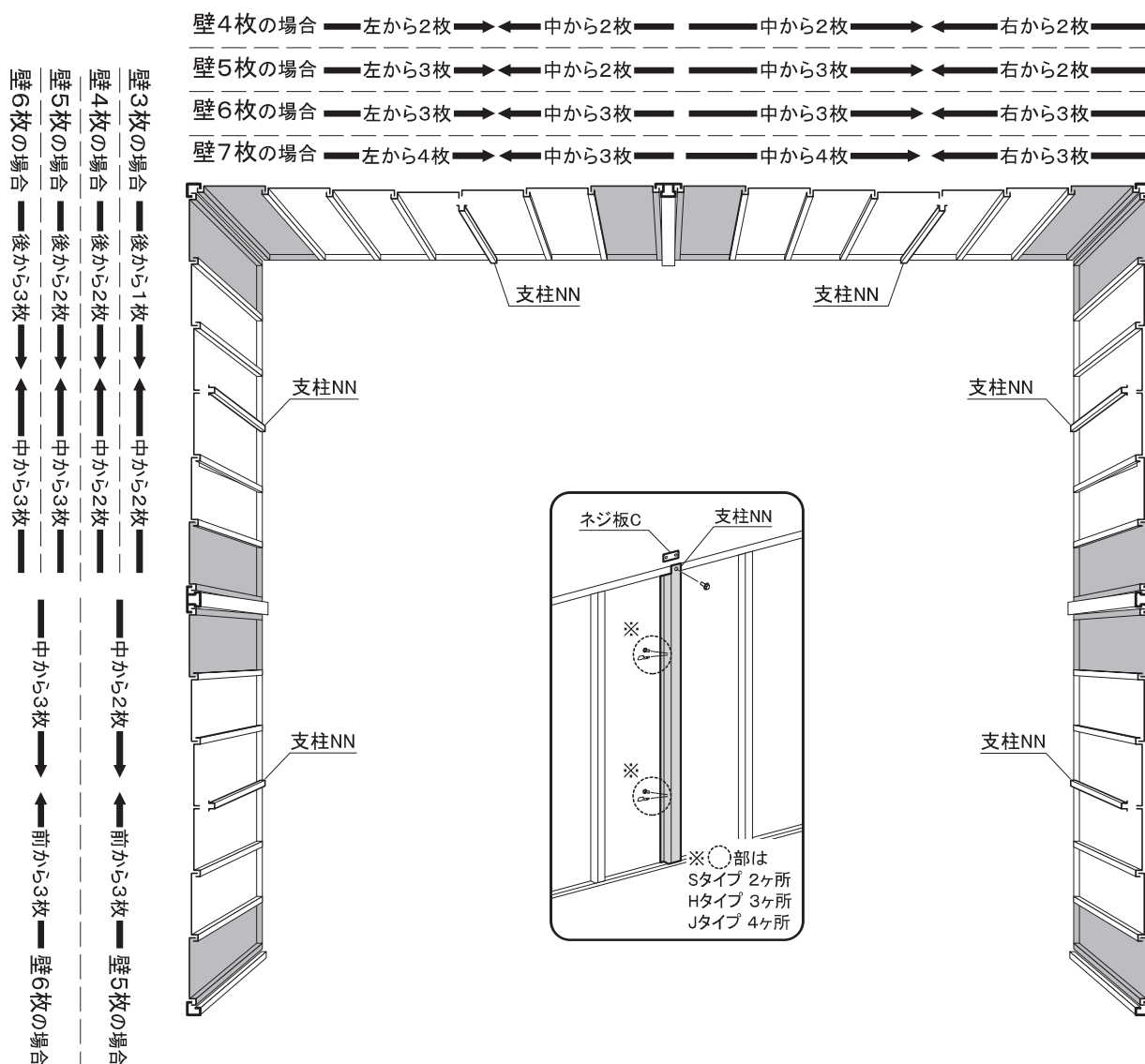


●壁パネルの組合せ図

壁パネルの組立順が違いますと、雨もりがする等の原因となります。支柱NNは、縦方向を壁パネルと共締めし、桁後・梁とはM6ボルトとネジ板Cで取り付けます。

※ 部以外の壁パネルは、「27.壁パネル・梁中カバーの取付」(P.18)で梁中カバーを取り付ける前に、必ずすべて取り付けてください。

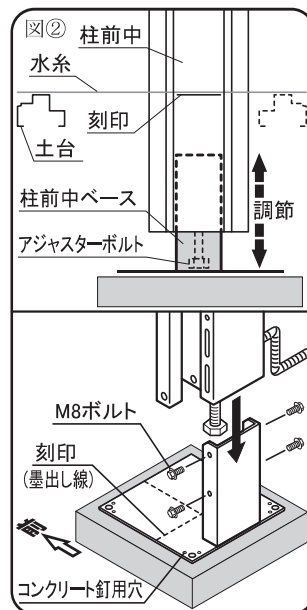
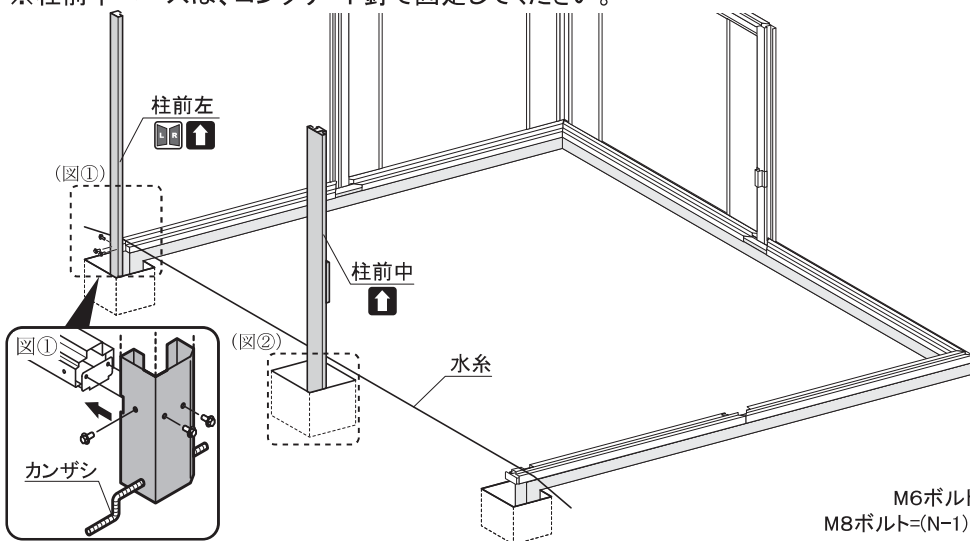
※別売の壁面扉等は、各々の組立説明書を参照して取り付けてください。



左右の向きに注意してください。
 左右共通の部材です。
 上下の向きに注意してください。
 前後の向きに注意してください。

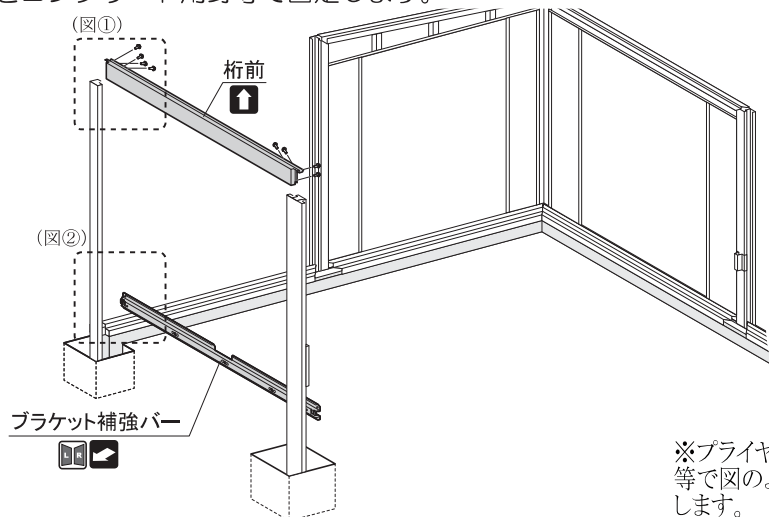
9. 柱前左・柱前中の取付

柱前左を土台左前に立てM6ボルトで取り付けます。次に柱前中の刻印を水系に合わせアジャスターボルトで高さ調整し、柱前中ベースにM8ボルトで取り付けます。
 ※柱前中ベースは、コンクリート釘で固定してください。

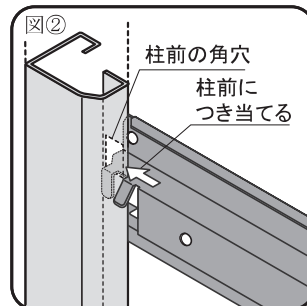
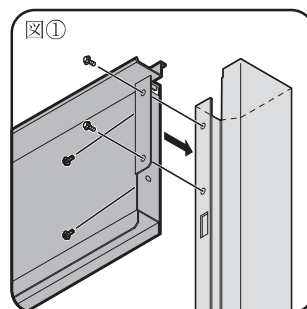


10. 桁前・ブラケット補強バーの取付

桁前のペロを柱前に引っ掛け、M6ボルトで取り付けます。次にブラケット補強バーのツメを曲げてから柱前の下部に引っ掛け、柱前中ベースをコンクリート用釘等で固定します。

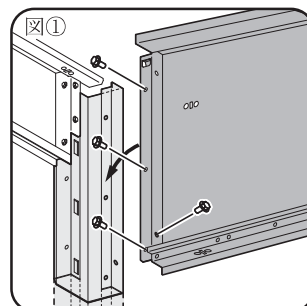
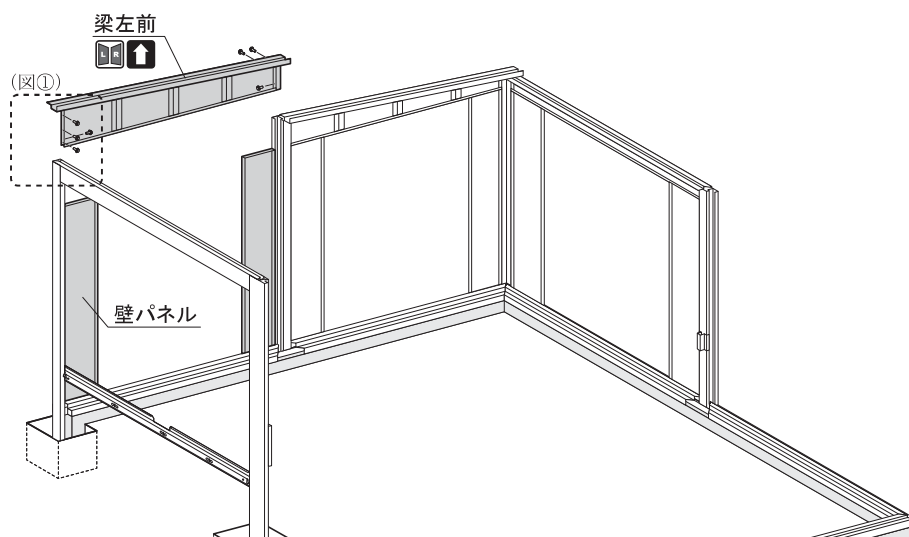


※プライヤー、マイナスドライバー等で図のようにツメを曲げて使用します。



11. 梁左前・壁パネルの取付

梁左前を柱に引っ掛け、M6ボルトで取り付けます。次に壁パネルを●壁パネルの組合せ図(P.10)を参考に柱に取り付けます。

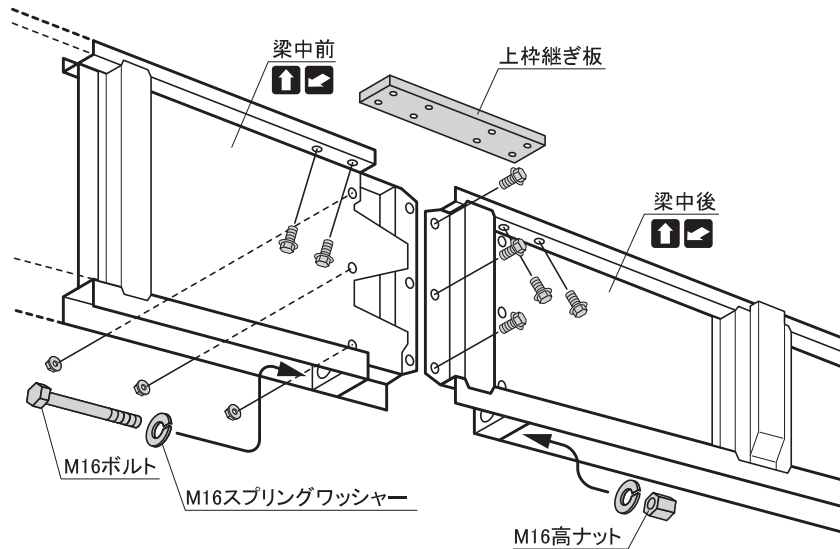


M6ボルト=7本

左右の向きに注意してください。 左右共通の部材です。 上下の向きに注意してください。 前後の向きに注意してください。

12. 梁中前後の組立

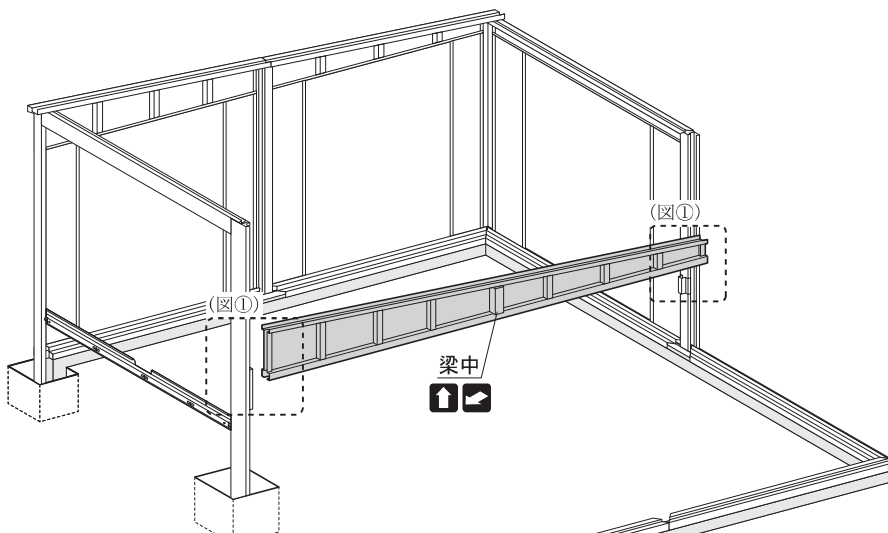
梁中後と梁中前をM8ボルト・ナットで取り付け、上部に上枠継ぎ板をM8ボルトで取り付けます。
下部にM16ボルトとM16高ナットを取り付け、梁中前後を引き寄せます。



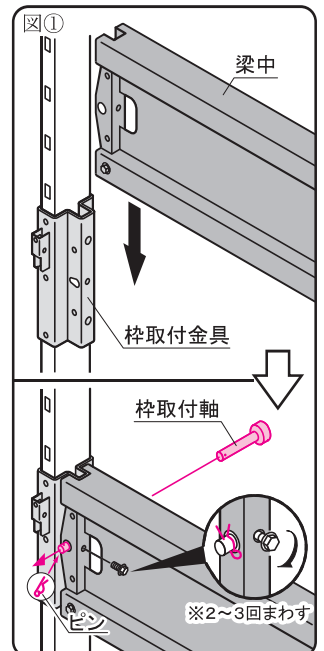
M8ボルト=(N-1)×14本
M8フランジナット=(N-1)×6個
M16ボルト=(N-1)本
M16高ナット=(N-1)個
M16スプリングワッシャー=(N-1)×2枚

13. 梁中の取付

梁中を柱前後中の枠取付金具に上からはめ、枠取付軸を差し込みピンで固定します。
この時、○図内のM8ボルトを2,3回まわして仮留めします。

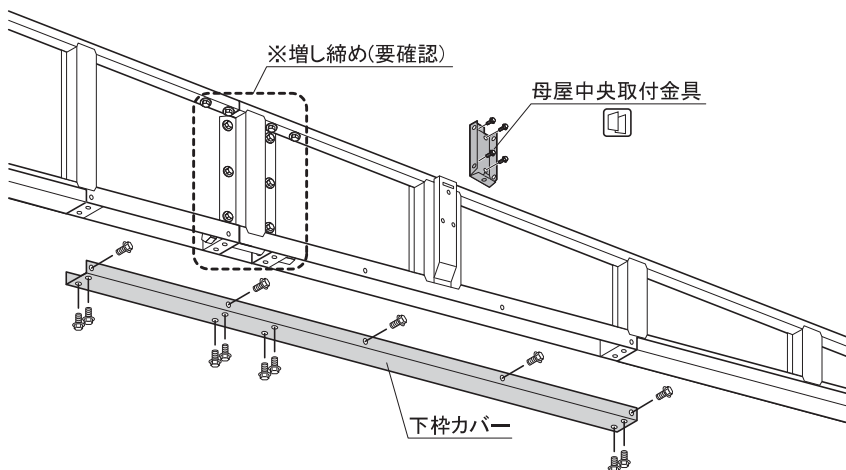


M8ボルト=(N-1)×2本



14. 梁中持ち上げ・下枠カバーの取付

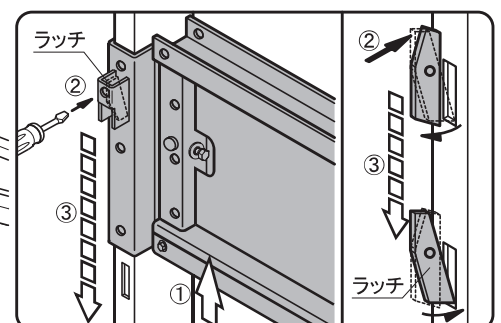
梁中の前と後を交互に水平を保ちながら1m位の高さまで上げ、連結部のM16ボルトを増し締めします。
次に下枠カバーをM8ボルトで、母屋中央取付金具をM6ボルトで取り付けます。
※持ち上げる時は、「カチャ」というラッチの音を確認しながら上げてください。



M8ボルト=(N-1)×18本
M6ボルト=(N-1)×8本

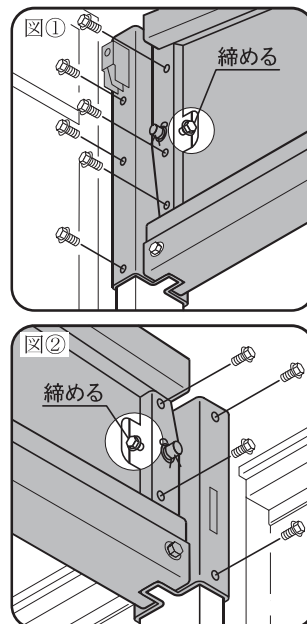
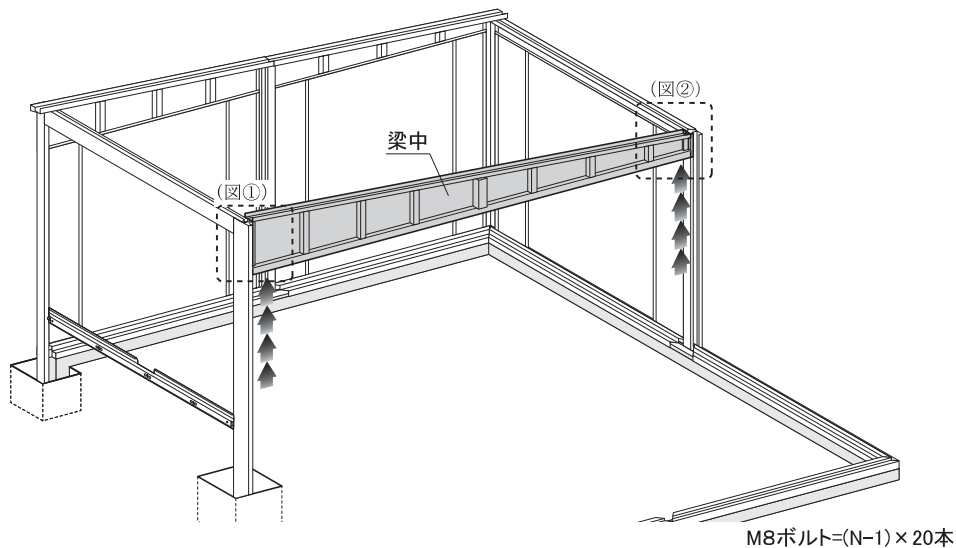
片方を持ち上げすぎた時(解体時)

①梁中を少し持ち上げ、②枠取付金具のラッチをドライバー等で押し、③ゆっくりと下に降ろします。
※一気に落ちる可能性がありますので、必ず下で支えてください。



15. 梁中の固定

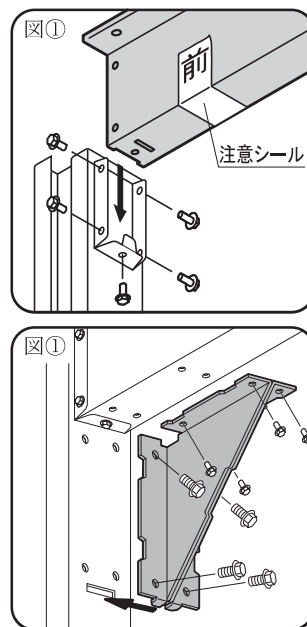
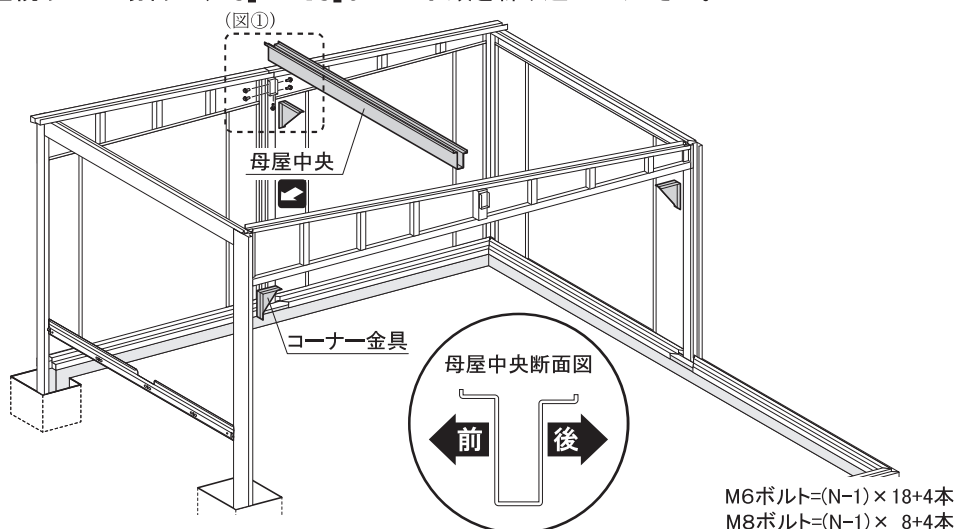
梁中の前・後を交互に1番上まで少しずつ上げ、○内のM8ボルト(右図①②参照)を充分締め付けてから、桢取付金具と柱をM8ボルトで固定します。



16. 母屋中央・コーナー金具の取付

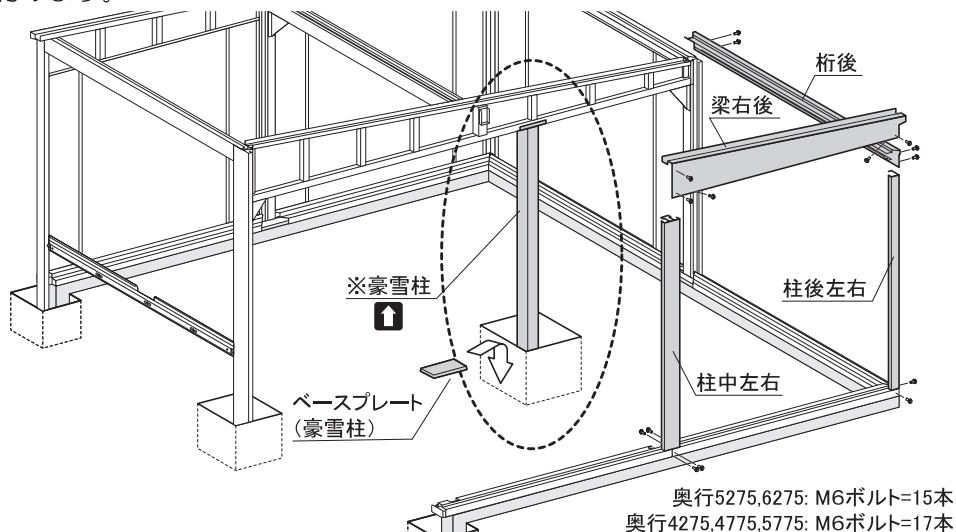
母屋中央を母屋中央取付金具にM6ボルトで取り付けます。次にコーナー金具を柱(M8ボルト)と梁中・母屋中央(M6ボルト)に取り付けます。

※3連続以上の場合は、「16」～「16」までの手順を繰り返してください。



17. 柱後・桁後・梁右後の取付《豪雪柱の取付》

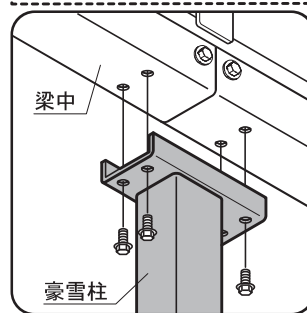
柱後右を土台に取り付け、桁後のペロを柱後に引っ掛けM6ボルトで取り付けます。次に柱中左右を土台に取り付け、梁右後を柱中左右と柱後に引っ掛けM6ボルトで取り付けます。



豪雪型の時

点線部の梁中のM8ボルト(下図参照)を一旦はずし、豪雪柱の下にベースプレートを敷きます。その後、梁中と豪雪柱を共締めします。

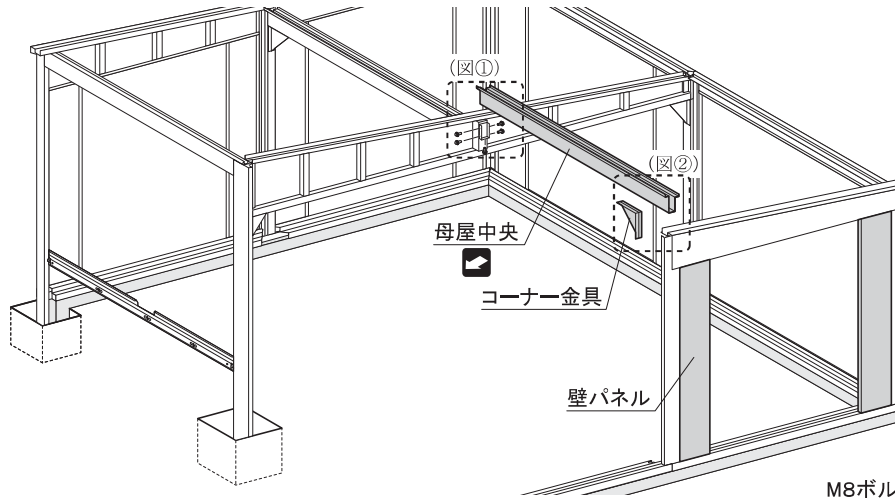
※間仕切壁が付く時は、豪雪柱の取付は不要です。



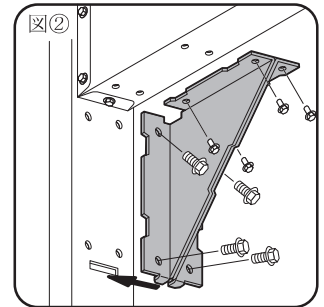
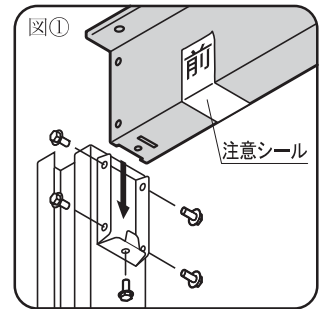
左右の向きに注意してください。
 左右共通の部材です。
 上下の向きに注意してください。
 前後の向きに注意してください。

18. 母屋中央・コーナー金具・壁パネルの取付

母屋中央を母屋中央取付金具にM6ボルトで取り付け、コーナー金具を柱とはM8ボルトで母屋中央とはM6ボルトで取り付けます。次に壁パネルを●壁パネルの組合せ図(P.10)を参考に柱に取り付けます。

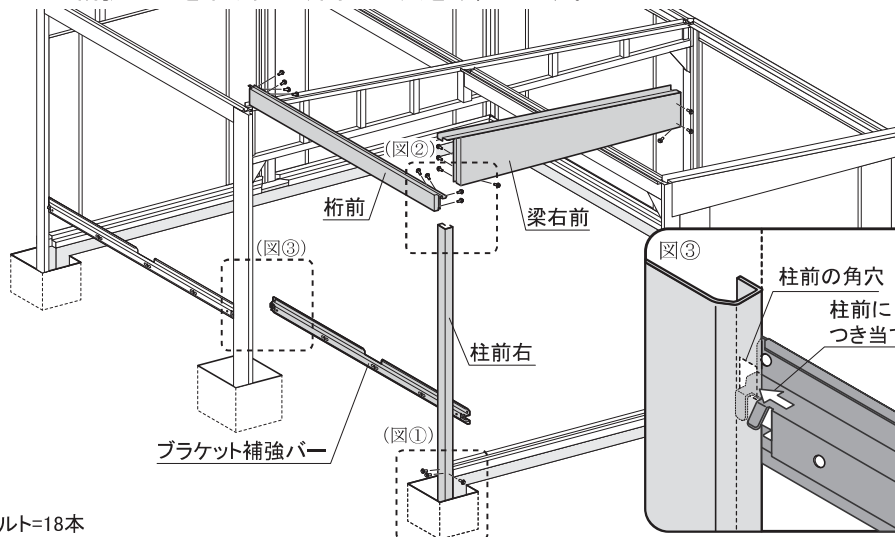


M8ボルト=4本
M6ボルト=14本

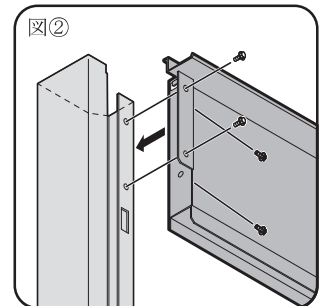
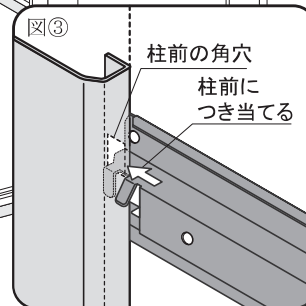
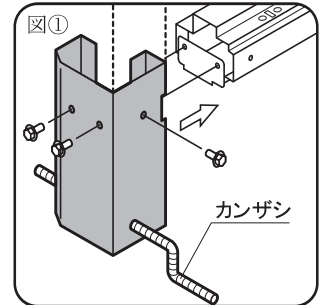


19. 柱前・桁前・梁右前の取付

柱前右を土台右前にM6ボルトで取り付け、桁前のペロを柱前に引っ掛けM6ボルトで取り付けます。次に梁右前を柱に引っ掛けM6ボルトで取り付けます。
※ブラケット補強バーを取り付け、間口寸法を確認します。

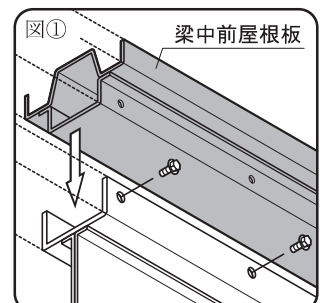
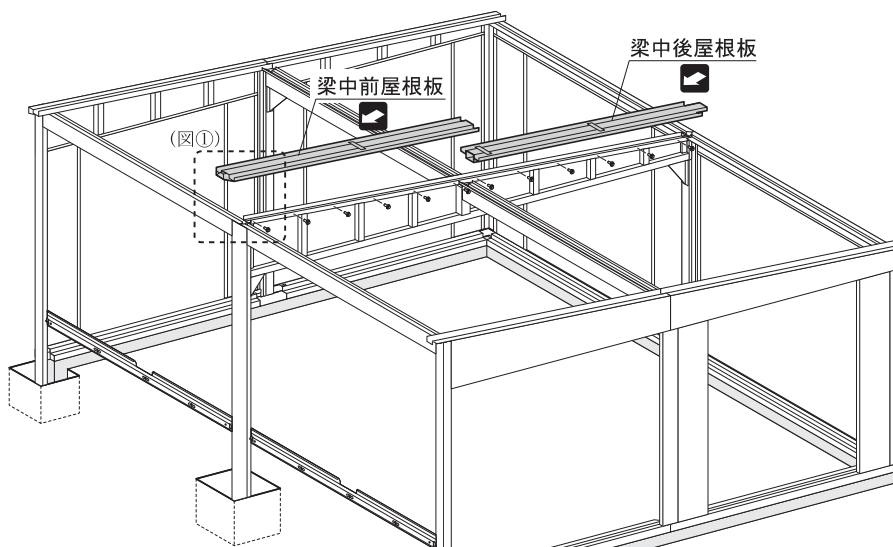


M6ボルト=18本



20. 梁中屋根板の取付

梁中に梁中後屋根板・梁中前屋根板の順にM6ボルトで取り付けます。



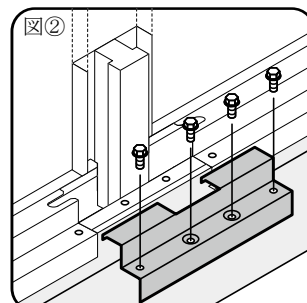
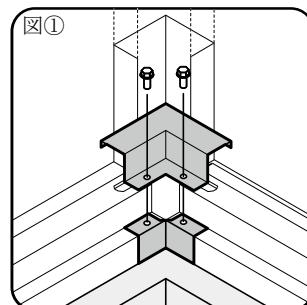
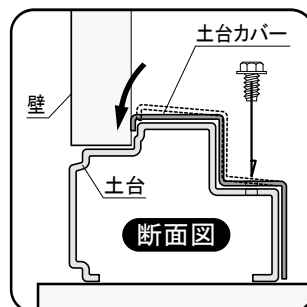
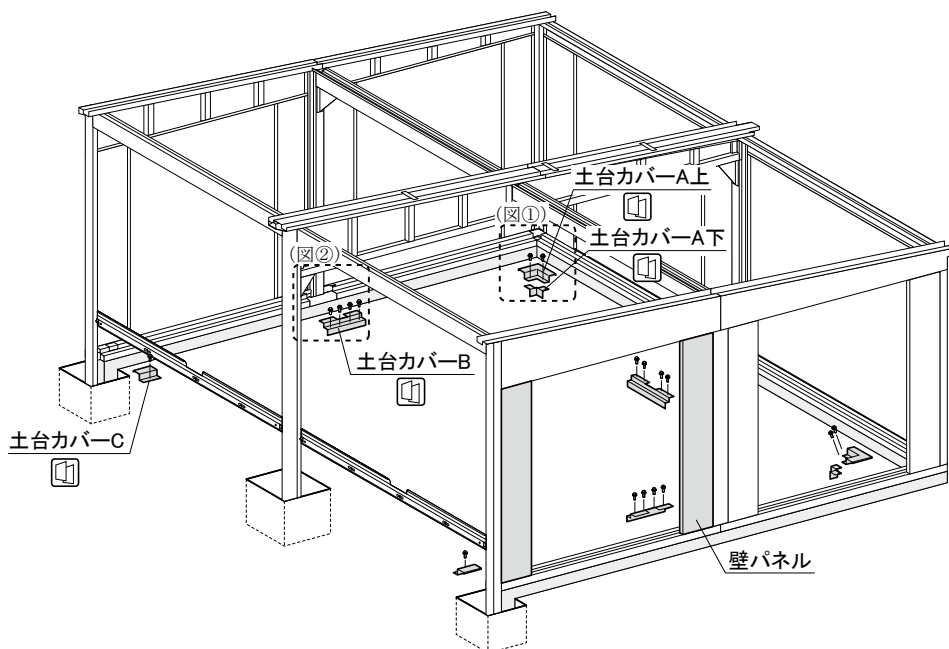
奥行4275: M6ボルト=(N-1)×20本
 奥行4775: (N-1)×22本
 奥行5275,5775: (N-1)×24本
 奥行6275: (N-1)×26本

21. 土台カバー・壁パネルの取付

柱の建ちを調整してから壁パネルを取り付けしてください。
 下げ振りをを用いて、**柱の傾きが5mm以内**になるように必ず寸法の確認をしてください。

土台カバーをかぶせる部分に取り付いているM6ボルトをはずし、土台カバーA上・下をコーナー部、土台カバーBを柱中部、土台カバーCを柱前部にM6ボルトで取り付けます。

次に壁パネルを●壁パネルの組合せ図(P.10)を参考に柱に取り付けます。



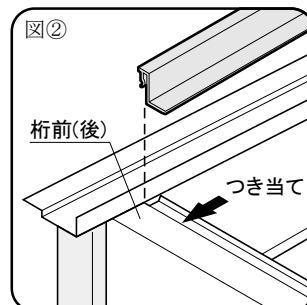
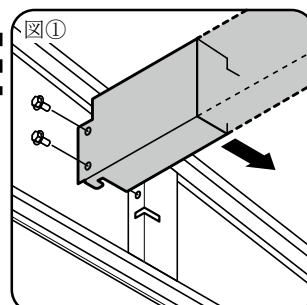
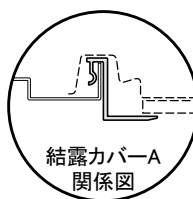
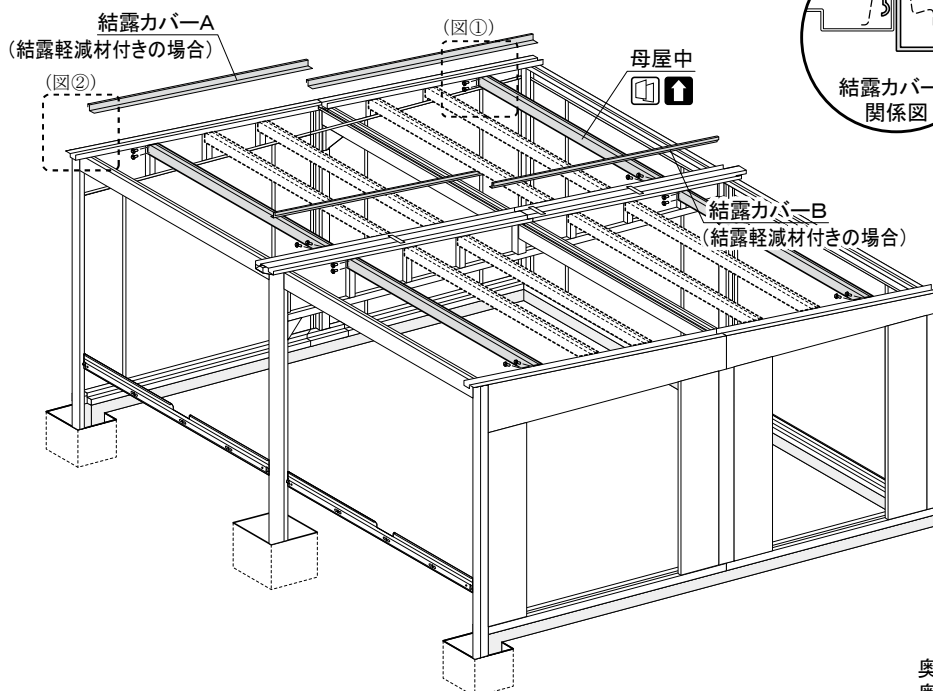
M6ボルト=(N-1)×2+6本

22. 母屋中の取付

母屋中を梁左右・梁中に渡し、M6ボルトで取り付けます。
 (点線部の母屋中は、屋根パネル取付後にセットすると組立が容易になります)

-(※結露軽減材付きの場合) 結露カバーA・Bの取付 - - - - -

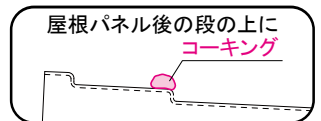
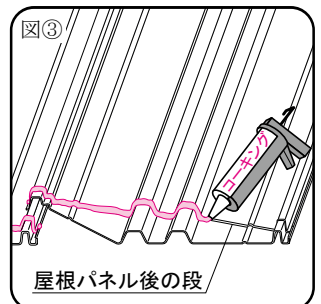
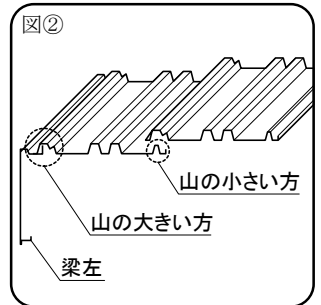
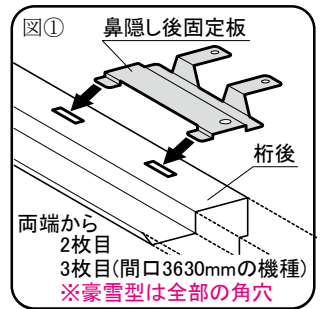
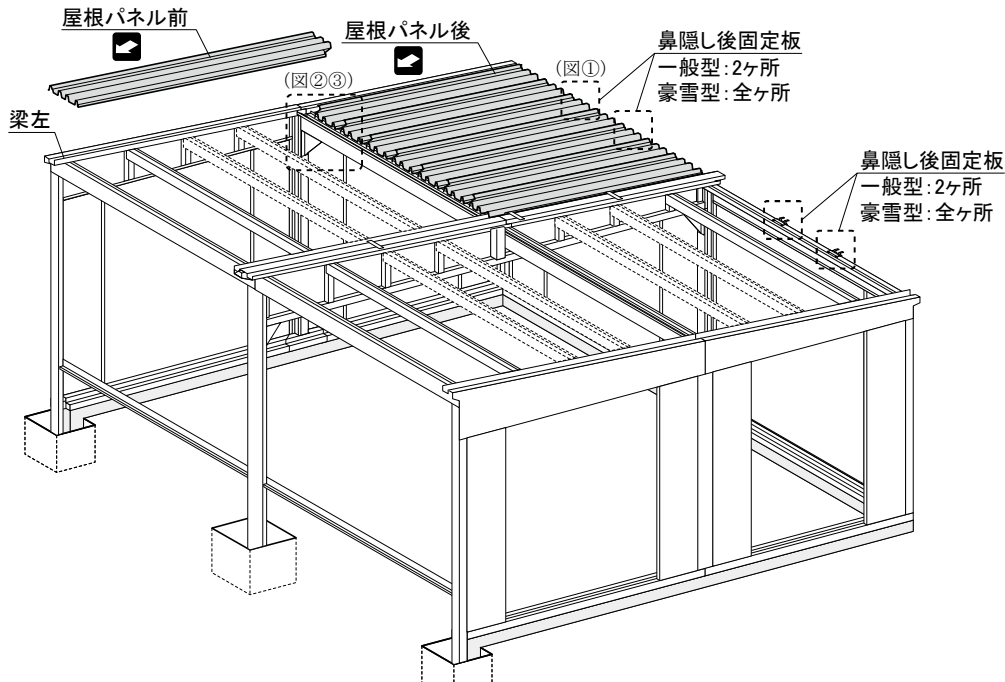
結露カバーA(ひげの長い方)を梁左に、結露カバーB(ひげの短い方)を梁右にはめ込みます。



奥行4275(母屋中4本): M6ボルト=N×16本
 奥行4775(母屋中5本): M6ボルト=N×20本
 上記以外の機種(母屋中6本): M6ボルト=N×24本

23. 屋根パネルの取付

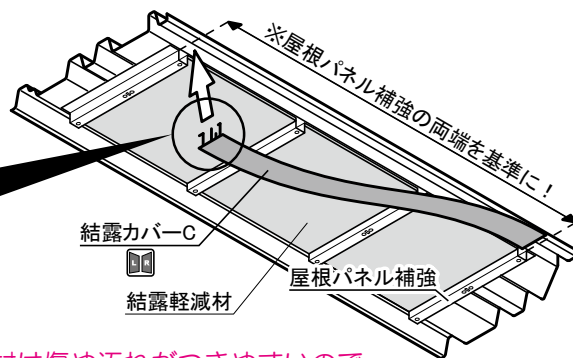
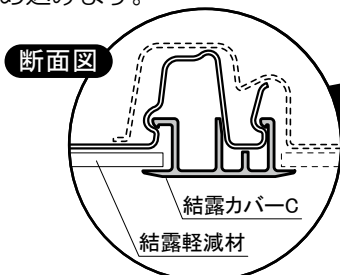
- ① 桁後の両端から屋根2枚目（間口3630mmの機種は3枚目）の角穴に、鼻隠し後固定板を2個差し込みます。（図①）
 ※豪雪型の場合は、全部の角穴に差し込みます。（追加の鼻隠し後固定板は別梱）
- ② 屋根パネル後を梁左から順にのせ（図②）、桁後に引き寄せます。
 ※結露軽減材付きの場合は、屋根パネルに結露カバーCを取り付けてからのせます。
 ※結露軽減材ナシの場合は、屋根パネルをのせた後、屋根パッキンを取り付けます。
- ③ 屋根パネル後をM6ボルトで桁後・母屋中央に取り付け、**屋根パネル後の段の上にコーキングを打ちます。**（図③）
- ④ 屋根パネル前を梁左から順にのせ（図②）、桁前に引き寄せます。
 M6ボルトで桁前・母屋中央に取り付けます。
- ⑤ 残りの母屋中を取り付け、屋根パネルをM6ボルトで取り付けます。



（※結露軽減材付きの場合）

結露カバーCの取付

屋根パネルの山の小さい方に、結露カバーCをはめ込みます。



※結露軽減材は傷や汚れがつきやすいので、指等で強く押さえないよう扱いには十分ご注意ください。

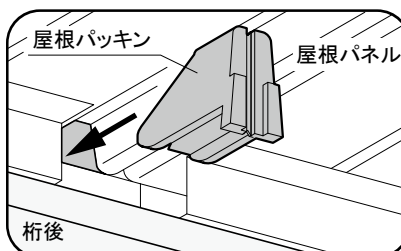
（※結露軽減材ナシの場合）

屋根パッキンの取付

（屋根パネルを固定する前に取り付けてください）

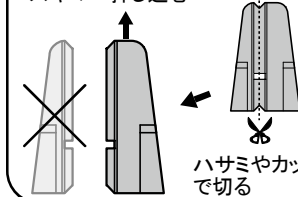
ホコリの侵入を防ぐため、屋根パッキンを桁後と屋根パネルのつなぎ目に押し込みます。（妻板左のスキマに入らない場合はカットしてください）

※妻板右・梁中の左側は、スキマが小さいので不要です。



※妻板左のスキマに入らない場合

カットしたパッキンを妻板左のスキマへ押し込む

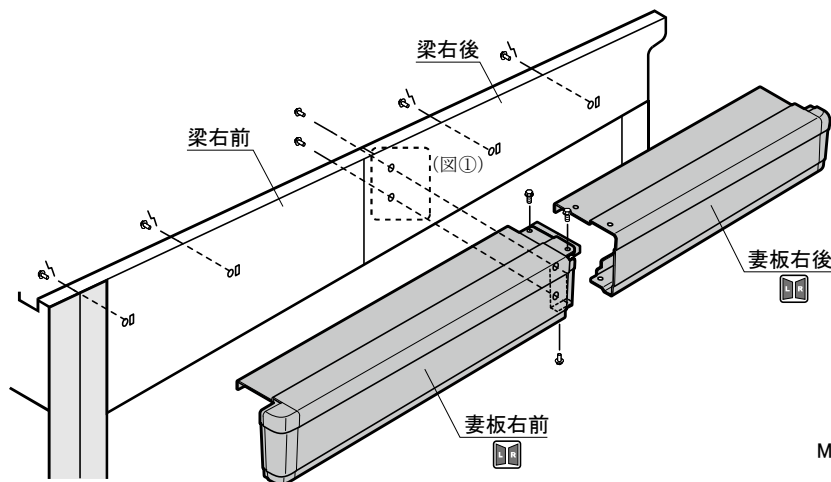


機種	数	機種	数	機種	数	機種	数	機種	数
間口2130	N×4個	間口3130	N×6個	間口4760	9個	間口5760	11個	間口6760	13個
間口2630	N×5個	間口3630	N×7個	間口5260	10個	間口6260	12個		

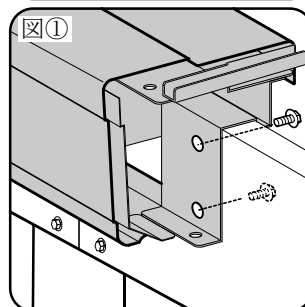
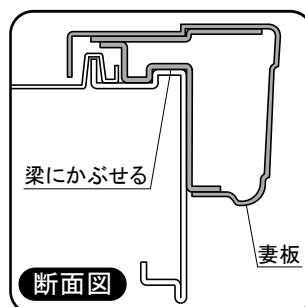
24. 妻板の取付

妻板右前を梁右前にかぶせ、庫内側からM6ボルトとネジ板で固定します。次に妻板右後を梁右後にかぶせ妻板前とM6ボルトで取り付け、庫内側からM6ボルトとネジ板で固定します。

※妻板左も同様に取り付けます。

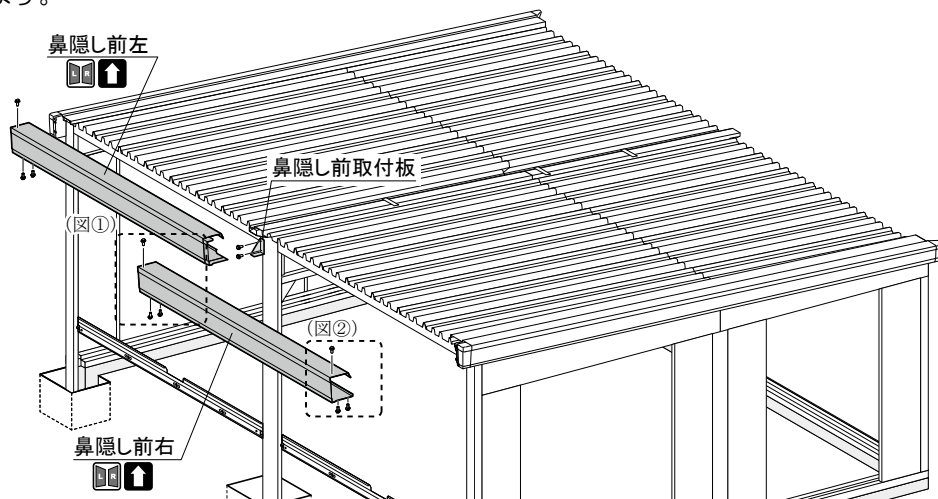


M6ボルト=18本
ネジ板= 8枚

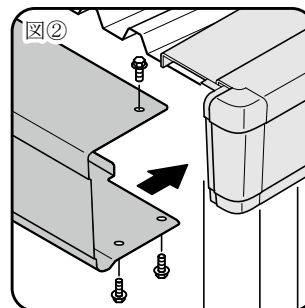
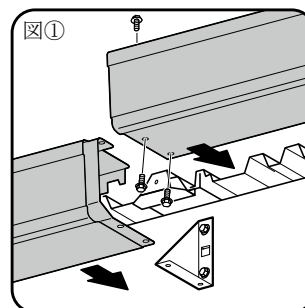


25. 鼻隠し前の取付

桁前のつなぎ目の角穴に、鼻隠し前取付板のペロを引っ掛けM6ボルトで取り付けます。次に鼻隠し前左【鼻隠し前中】鼻隠し前右の順に屋根にかぶせM6ボルトで取り付けます。



M6ボルト=(N-1)×5+6本

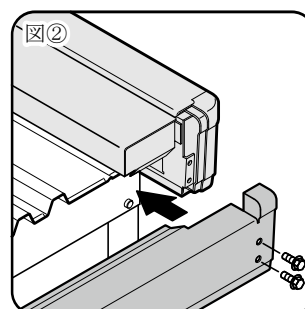
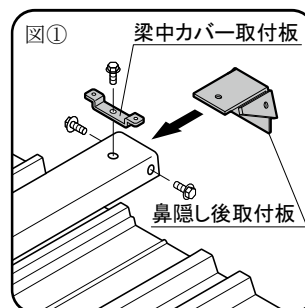
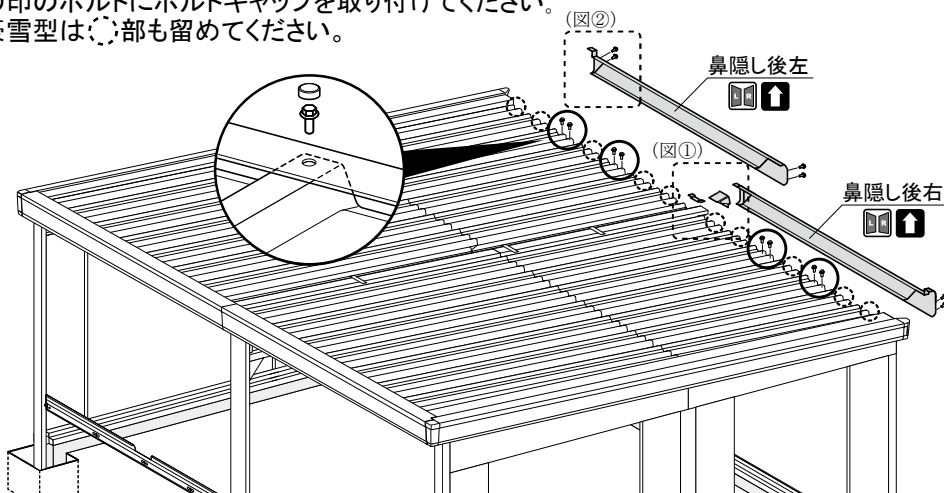


26. 鼻隠し後の取付

梁中後屋根板に、鼻隠し後取付板と梁中カバー取付板をM6ボルトで取り付けます。次に鼻隠し後右を屋根にかぶせ、下図のようにM6ボルトで鼻隠し後固定板に取り付けます。【鼻隠し後中】鼻隠し後左も同様に取り付け、後面のM6ボルトを取り付けます。

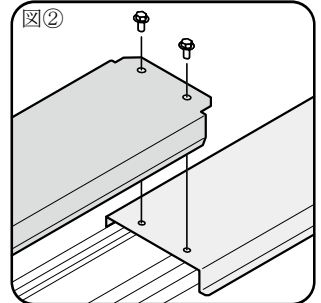
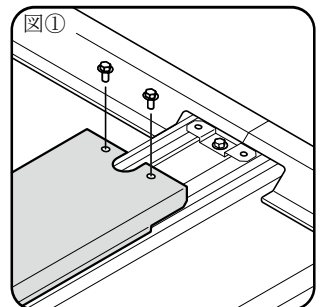
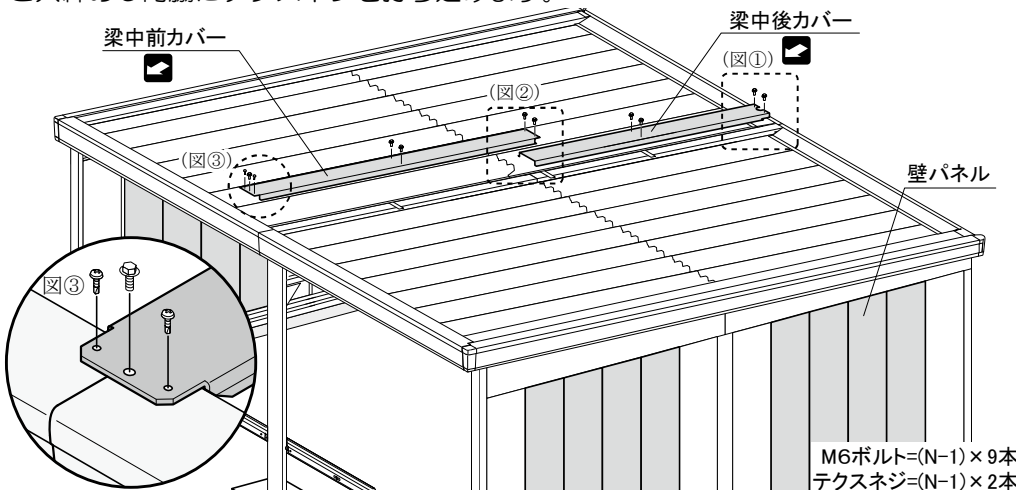
※○印のボルトにボルトキャップを取り付けてください。

※豪雪型は○部も留めてください。



27. 壁パネル・梁中カバーの取付

壁パネルと支柱NNを●壁パネルの組合せ図(P.10)を参考にすべて取り付けます。次に梁中後カバーをM6ボルトで取り付け、梁中前カバーを鼻隠し前中のM6ボルトと共締めし両脇にテクスネジを打ち込みます。



28. シャッターの取付

柱の建ちを調整してから、シャッターの取り付けを開始してください。柱の傾きが5mm以内になるように、下げ振りをういて必ず寸法の確認をしてください。

①ブラケット補強バーをはずします。

《間口2130mm、2630mm、3130mmタイプ》

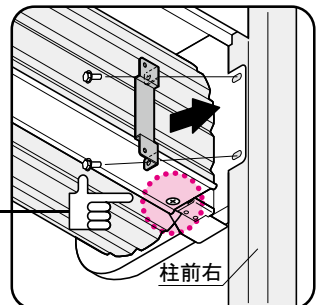
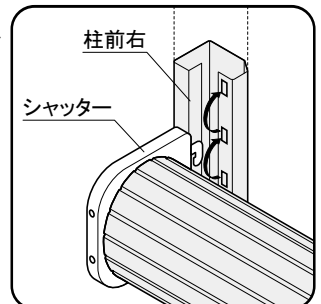
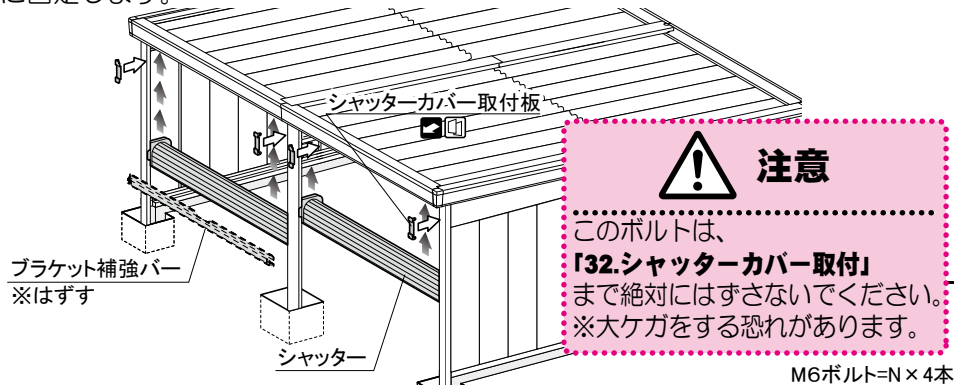
②シャッターのブラケットのツメを柱前の角穴に入れ、左右交互に持ち上げ、1番上の角穴にツメを入れてください。

※安全のため、ツメが角穴に入ったのを確認しながら徐々に持ち上げてください。

《間口3630mm タイプ》

②シャッターが分割されているため、シャッター梱包内の組立説明書の指示にしたがって組立を行い③の説明に進んでください。

③シャッターカバー取付板を垂直になるようにM6ボルトでブラケットと共締めし柱に固定します。



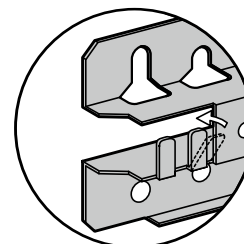
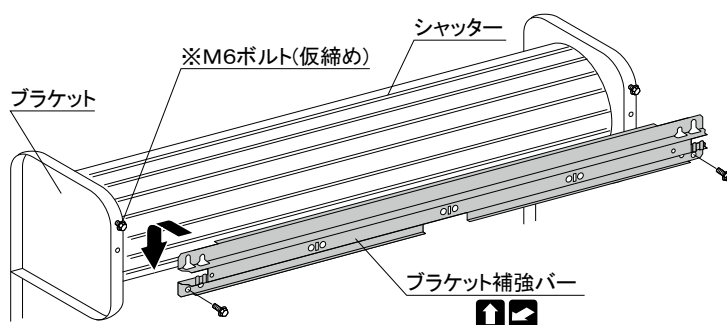
29. ブラケット補強バーの取付

※耐風シャッターを取り付ける場合は「31.シャッターレールの取付」(P.20)でブラケット補強バーを使用するため、ここで取り付けを行わず「30.胴縁の取付」へ進んでください。

①ブラケットの1番上のネジ穴にボルトを仮締めし、ブラケット補強バーをそのボルトに引っかけます。

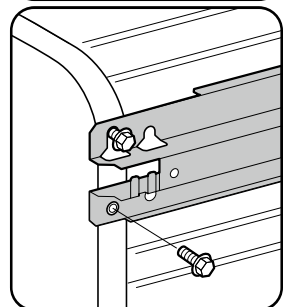
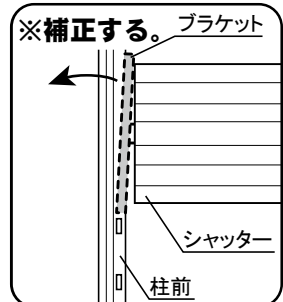
②ブラケットのゆがみを補正し、下のボルトを取り付けます。仮締めしたボルトを本締めします。

※ブラケットがゆがんだままですと、異音や故障の原因になります。



※シャッターケースを取り付ける場合は、ブラケット補強バーのツメをもどしてシャッターケースと干渉しないようにしてください。

M6ボルト=N×4本

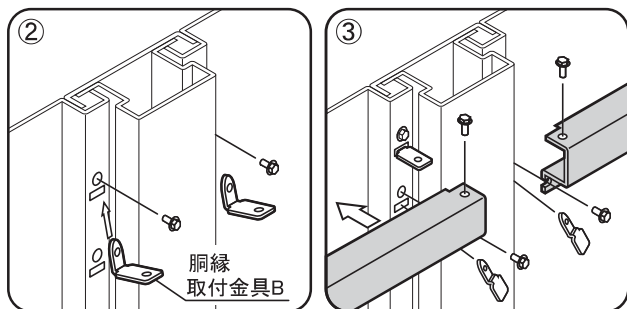


左右の向きに注意してください。
 左右共通の部材です。
 上下の向きに注意してください。
 前後の向きに注意してください。

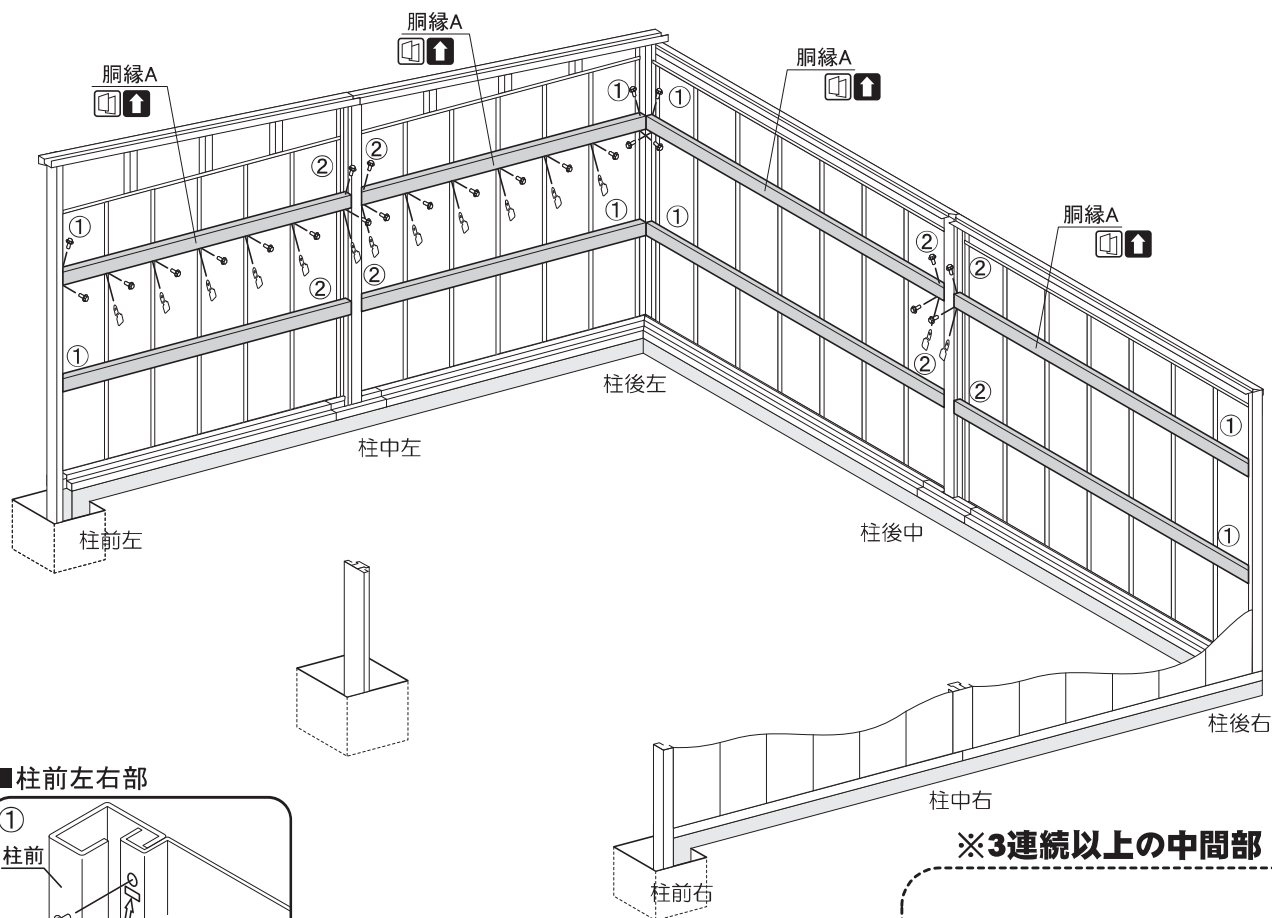
30. 胴縁の取付 《Jタイプのみ》

- ① 胴縁取付金具ANを柱後・柱前左右の壁パネルにM6ボルトとネジ板で取り付けます。
 - ② 胴縁取付金具Bを柱中左右・柱後中の壁パネルにM6ボルトで取り付けます。
 - ③ 壁パネルの枚数に合った長さの胴縁A【胴縁C】を胴縁取付金具ANとはM6ボルトで、胴縁取付金具B・壁パネルとはM6ボルトとネジ板で取り付けます。
- ※別売の壁面扉等は、各々の組立説明書を参照して取り付けてください。

■柱中左右・柱後中部



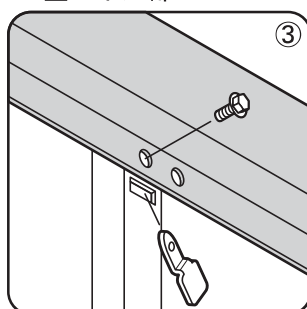
■柱後左右部



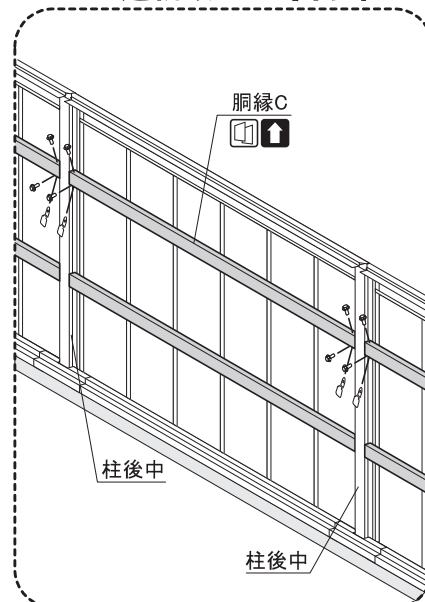
■柱前左右部



■壁パネル部



※3連続以上の中間部



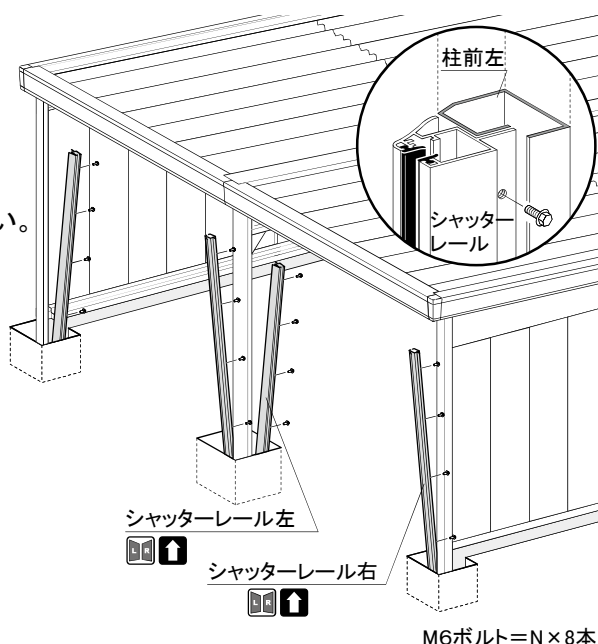
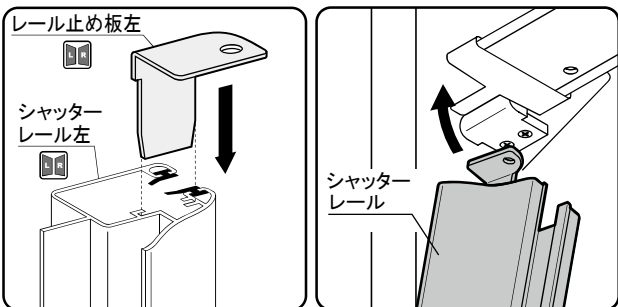
31. シャッターレール・レール止め板の取付

- ①シャッターレール上部にレール止め板をたたき込みます。
- ②シャッターレールを柱前に内側からM6ボルトで取り付けます。

《耐風シャッターを取り付ける場合》

耐風シャッターレール梱包内の組立説明書の指示にしたがってレール化粧板と耐風シャッターレールの組み立てを行ってください。

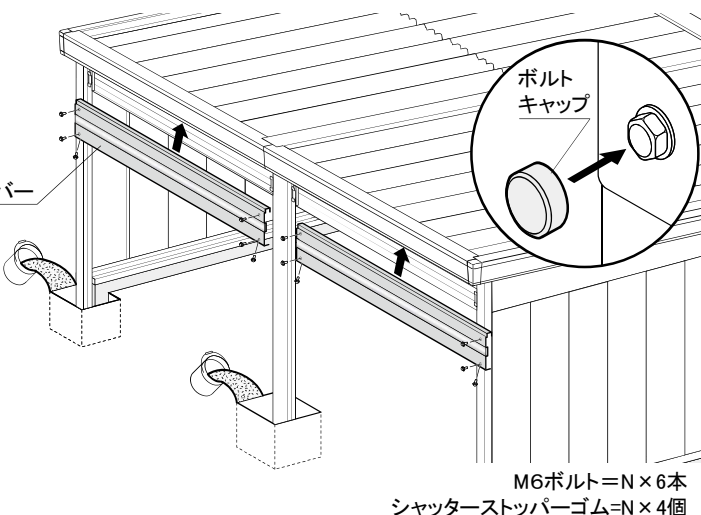
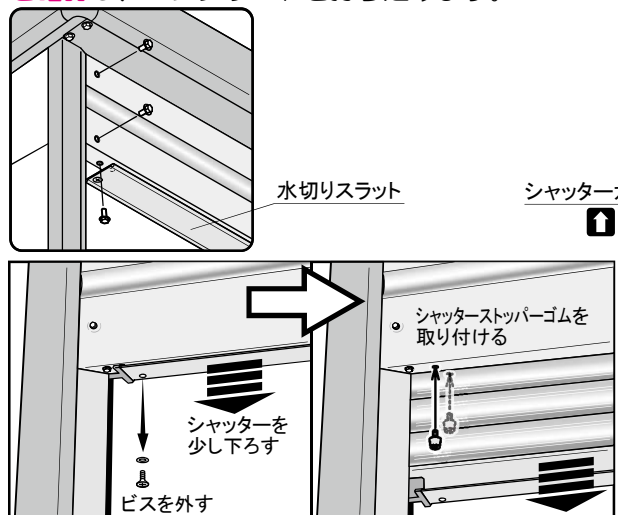
※耐風シャッターレールは、耐風シャッターが取り付け間口3130mm、3630mmタイプに取り付けます。間口が2630mm以下のタイプとの連棟の際は、取り付け間違いがないよう注意してください。



M6ボルト=N×8本

32. シャッターカバー・ボルトキャップの取付・柱の埋め込み

シャッターカバーをM6ボルトで取り付け、シャッターの水切りスラットを止めているビスをはずし、シャッターストッパーゴムを取り付けます。次に外部のM6ボルトの頭にボルトキャップを取り付けます。シャッター梱包内のチェックリストを用いて、間口寸法と柱前の垂直・通り（豪雪型の場合は豪雪柱の建ち）を確認し、コンクリートを打ち込みます。



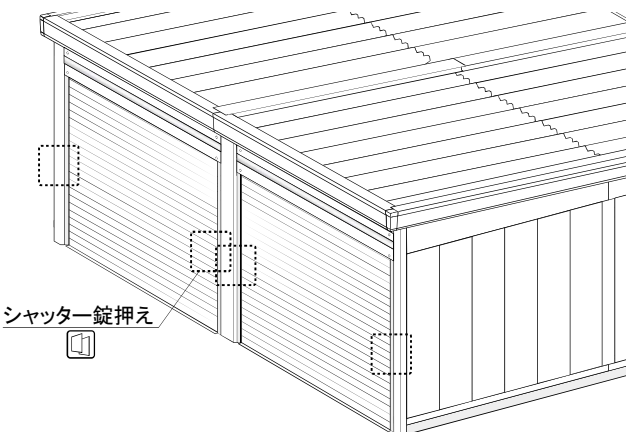
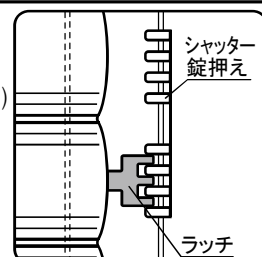
M6ボルト=N×6本
シャッターストッパーゴム=N×4個

33. シャッター錠押えの取付・保管ケースの貼付【完成】

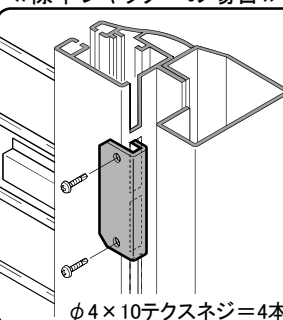
庫内から施錠し、シャッター錠押えをシャッターレールの角穴からラッチにかませ、テクスネジで取り付けます。（リモコンシャッターの場合は錠押えの取り付けは不要です。）

※土間コンクリートを打つことによって、施錠高さ（ラッチ位置）が上がる可能性があるため、シャッター錠押えの下部にラッチをかませてください。

最後に保証書・取扱説明書・組立説明書を保管ケースに入れて、庫内シャッター横の壁パネル面（高さ1.5mくらい）に貼り付けてください。

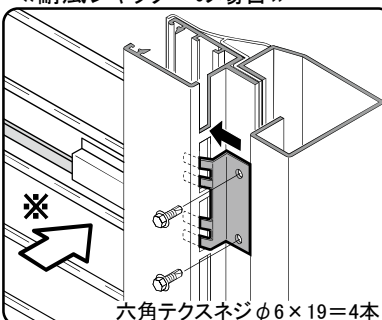


《標準シャッターの場合》



φ4×10テクスネジ=4本

《耐風シャッターの場合》



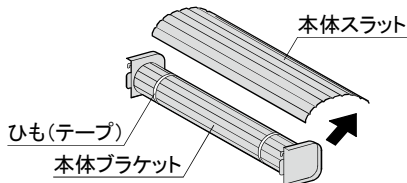
六角テクスネジφ6×19=4本

※庫内からシャッタースラットを手で押しながら錠押えを差しこんでください。

イナバガレージ シャッター組立説明書 CS・SM色 (三和シャッター製)

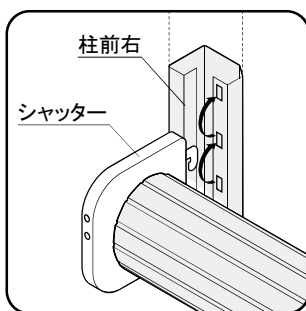
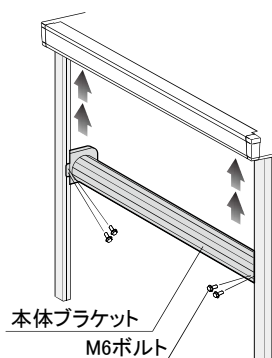
- ※鋼材切断端部が露出している部品があります。
組立時は必ず手袋等の保護具を着用してください。
※手動シャッターの場合、本体ブラケットに巻いてある「本体スラット」をはずしてから組み立てをはめてください。

※本体ブラケットのひも(テープ)は1.本体ブラケットの取付の後に外すと作業しやすくなります。



1. 本体ブラケットの取付

本体ブラケットのツメを柱前の角穴に入れ、左右交互に持ち上げます。
※安全のため、ツメが角穴に入ったのを確認しながら徐々に持ち上げてください。
ツメが1番上の角穴に入ったら、M6ボルトでブラケットと共締めし、柱に固定します。

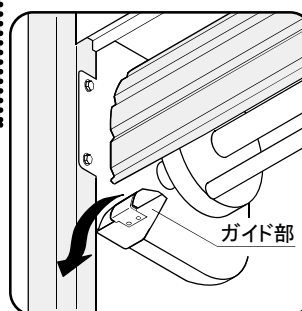
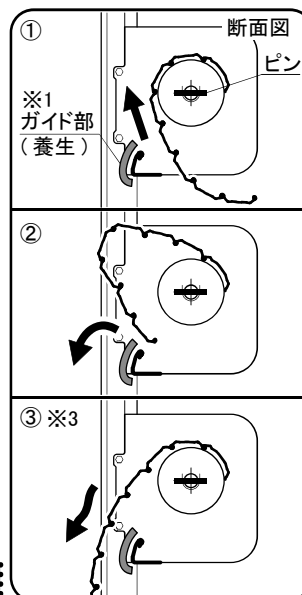
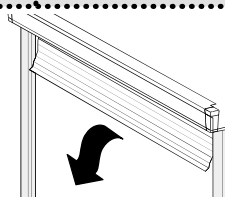


2. スラットの取り出し

本体ブラケットに巻きついているスラットを、屋外側に取り出します。

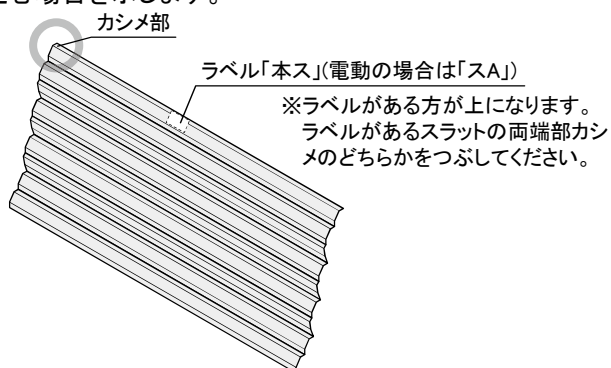
- ※1 ガイド部とスラットが接触して傷付かないようガイド部を養生してください。
※2 耐風シャッターの場合、スラット端部にスリットが入っており、変形しやすくなっているため、取り扱いには十分注意してください。
※3 ③の時にピンが庫内側から見えることを確認してください。この時にピンが見えないとシャッターの組立ができなくなります。

警告
この時、ピンは絶対にはずさないでください。
※スラットが激しく回転して、大ケガをする恐れがあります。



3. 本体スラットの取付

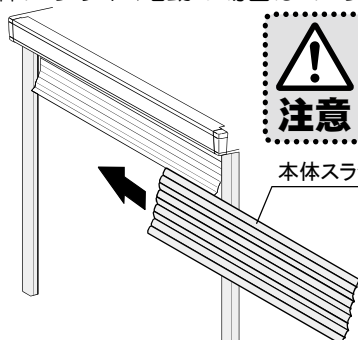
本体スラット(電動の場合はスラット梱包内の「スラットA」)のラベルの付いている方のスラット両端部カシメのうち、片方を専用のヤットコ又はプライヤー等でつぶします。
※スラットを差し込む方向に合わせ、どちらか一方のカシメをつぶしてください。本図はガレージに向かって右側から差し込む場合を示します。



●CS・SM色の場合 カシメ部(円筒状に出ている部分)をつぶす

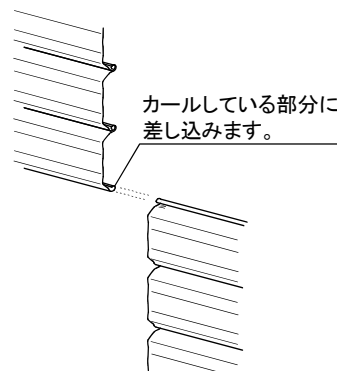


次に、本体スラット(電動の場合は「スラットA」)を横から差し込みます。



注意
この時、柱とスラットが接触して傷付かないように養生してください。

本体スラット(電動の場合はスラットA)



差し込み終わったら、つぶしたカシメを元に戻し(カシメなおし)ます。シャッターが左右にずれないか確認してください。
※カシメを忘れると、シャッターの使用中にスラットが片寄り、開閉に支障が出る等の不具合の原因になります。

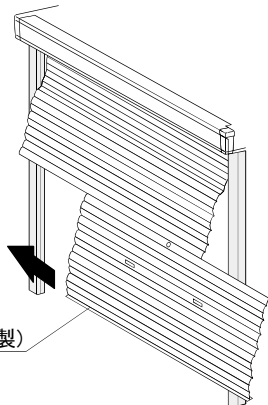
裏面につづく

4. スラットA・B・Cの取付

残りのスラットも同様に取付けます。手動の場合はA・B・C、電動の場合はB・Cの順に取り付けます。各スラットの上側にはそれぞれ「スA」、「スB」のラベルが貼り付けてあります。

※最後のスラットCには、ラベルはありません。水切りがある方が下側となります。

水切り(アルミ製)



5. シャッターカバーの取付

ブラケットを止めているボルトを一旦はずし、シャッターカバー取付板が垂直になるようにM6ボルトでブラケットと共締めした後、シャッターカバーを取り付けます。

シャッターカバー取付板

シャッターカバー



注意

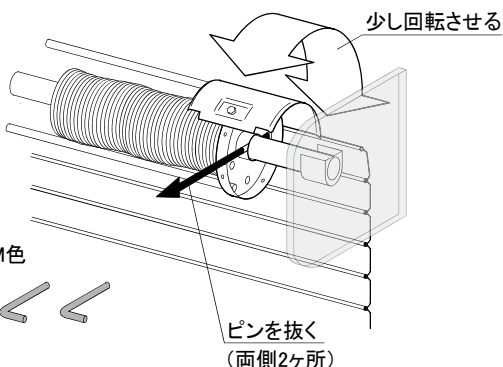
シャッターカバーを付けないと、スラット巻上げ時にアテとなるものがない為危険です。

6. ピンの取りはずし

CS・SM色の場合は左右両側2ヶ所の黄色の「△警告」シールをはがし、その下にあるピンを抜きます。

ピンは、L字形状です。

※ピンが抜けにくい場合は、スラットを少し回転させながらピンがゆるむポイントを探ってください。



●CS・SM色のピン

ピンを抜く
(両側2ヶ所)



注意

その他の割りピン等は絶対にはずさないでください。
※スラットが横ずれして開閉できなくなることがあります。

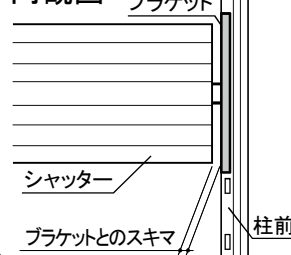
7. シャッターの巻き上げ

巻取部を手で回しながらゆっくりとシャッターを巻上げます。この時、ガイド部にスラットが引っかかるので、内側から押しながら巻き上げてください。

※巻き上げるに従いバネによる巻上げが強くなりますので、かならず二人以上で作業してください。

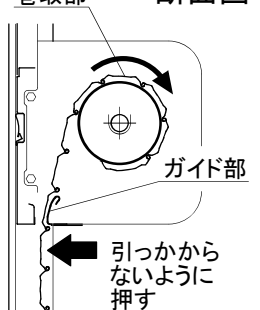
※シャッターが片寄らないように(シャッターとブラケットとのスキマが左右均一になるように)木片等で調整しながら巻き上げてください。

内観図



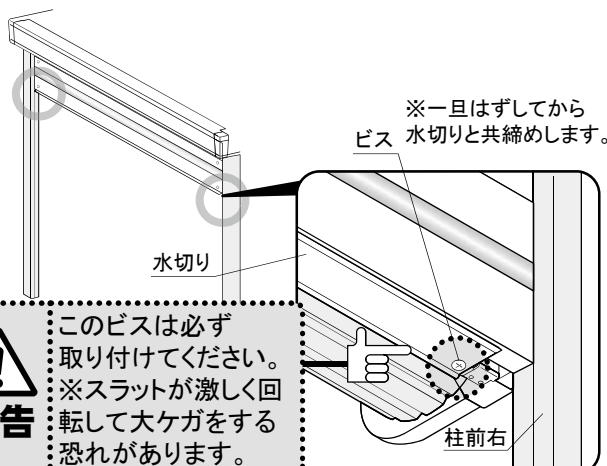
巻取部

断面図



8. シャッターの固定

ブラケットに止めてあるビスを一旦はずし、水切りと共に再度取付けます。※ビスは両端部にあります。必ず両側のビスを固定しなおしてください。



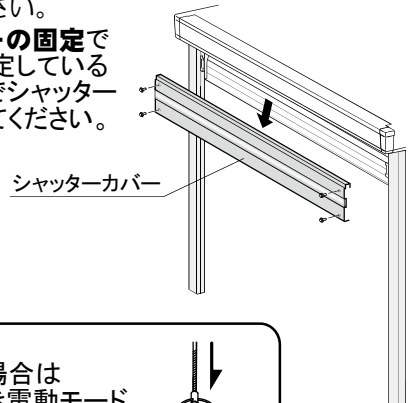
警告

このビスは必ず取り付けてください。
※スラットが激しく回転して大ケガをする恐れがあります。

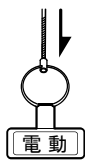
9. シャッターカバーの取り外し

組立順序の関係上、一旦シャッターカバーを取り外します。その後、本体組立説明書に従って、本体の組み立てを続けてください。

※必ず8.シャッターの固定でビスが水切りを固定していることを確認した上でシャッターカバーを取り外してください。



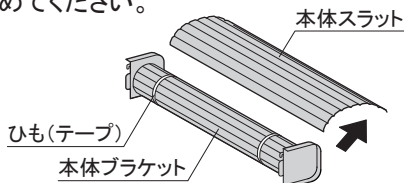
電動シャッターの場合は電動スイッチを引き電動モードに切り替えてからリミット設定へお進みください。



イナバガレージ シャッター組立説明書 UG・SW・SG色 (文化シャッター製)

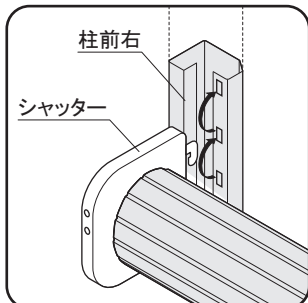
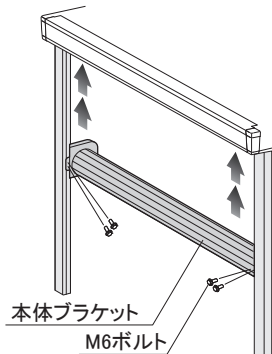
※鋼材切断端部が露出している部品があります。
組立時は必ず手袋等の保護具を着用してください。
※手動シャッター(高さSタイプを除く)の場合、本体
ブラケットに巻いてある「本体スラット」ははずして
から組み立てをはじめてください。

※本体ブラケットのひも
(テープ)は1.本体ブラ
ケットの取付の後に
外すと作業しやすくな
ります。



1. 本体ブラケットの取付

本体ブラケットのツメを柱前の角穴に入れ、左右交互に持ち上げます。
※安全のため、ツメが角穴に入ったのを確認しながら徐々に持ち上げてください。
ツメが1番上の角穴に入ったら、M6ボルトでブラケットと共締めし、柱に固定します。



2. スラットの取り出し

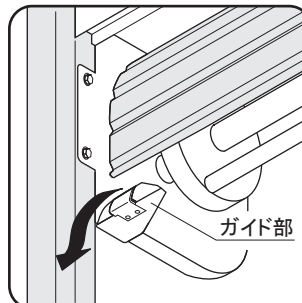
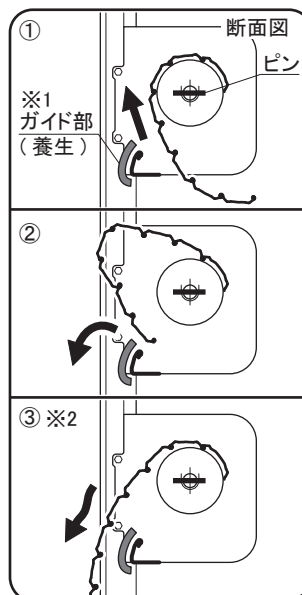
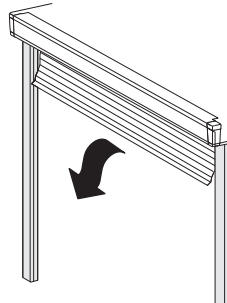
本体ブラケットに巻きついているスラットを、屋外側に取り出します。
※1ガイド部とスラットが接触して傷付かないようガイド部を養生してください。



警告

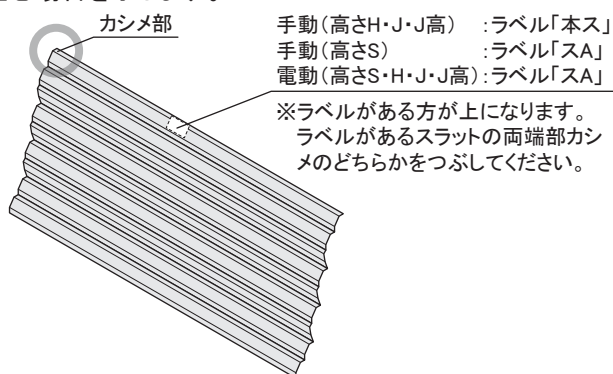
この時、ピンは絶対にはずさないでください。
※スラットが激しく回転して、大ケガをする恐れがあります。

※2③の時にピンが庫内側から見えることを確認してください。この時にピンが見えないとシャッターの組立ができなくなります。

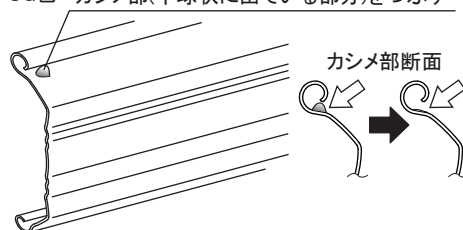


3. 本体スラットの取付

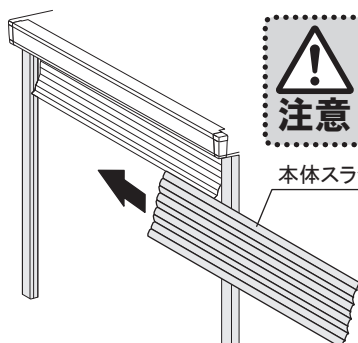
「本体スラット」または「スラットA」のラベルの付いている方のスラット両端部カシメのうち、片方を専用のヤットコ又はプライヤー等でつぶします。
※スラットを差し込む方向に合わせ、どちらか一方のカシメをつぶしてください。本図はガレージに向かって右側から差し込む場合を示します。



●UG・SW・SG色 カシメ部(半球状に出ている部分)をつぶすの場合



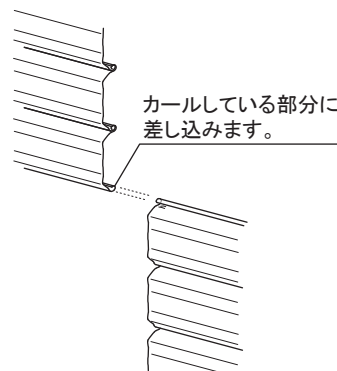
次に、本体スラット(スラットA)を横から差し込みます。



注意

この時、柱とスラットが接触して傷付かないように養生してください。

本体スラット(スラットA)



差し込み終わったら、つぶしたカシメを元に戻し(カシメなおし)ます。シャッターが左右にずれないか確認してください。

※カシメを忘れると、シャッターの使用中にスラットが片寄り、開閉に支障が出る等の不具合の原因になります。

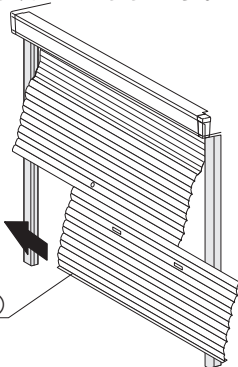
裏面につづく

4. スラットA・B・Cの取付

残りのスラットも同様に取付けます。
手動(高さH・Jタイプ)の場合はA・B・C、
手動(高さSタイプ)と電動の場合はB・C
の順に取り付けます。各スラットの上側にはそれぞれ
「スA」、「スB」のラベルが貼り付けてあります。

※最後のスラットCには、
ラベルはありません。
水切りがある方が下側
となります。

水切り(アルミ製)

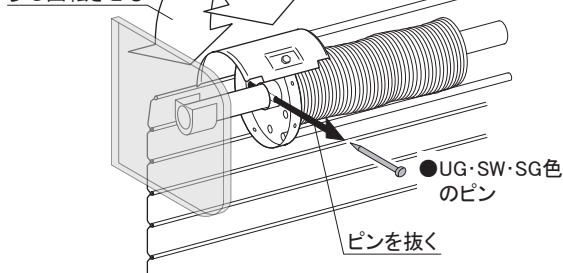


6. ピンの取りはずし

UG・SW・SG色の場合は内観左側1ヶ所の「△警告」
シールをはがし、その下にあるピンを抜きます。
ピンは釘形状です。

※ピンが抜けにくい場合は、スラットを少し回転させながら
ピンがゆるむポイントを探ってください。

少し回転させる



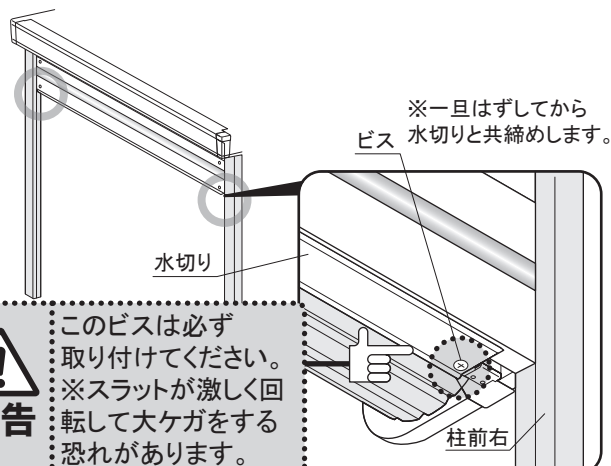
※電動シャッターの場合は、
(別紙)ワイヤー固定金具組立説明書の指示に従って、
手動に切り替えてから組立をしてください。



その他の割りピン等は絶対に
はずさないでください。
※スラットが横ずれして開閉で
きなくなることがあります。

8. シャッターの固定

ブラケットに止めてあるビスを一旦はずし、
水切りと共に再度取付けます。
※ビスは両端部にあります。必ず両側のビスを固定し
なおしてください。



このビスは必ず
取り付けてください。
※スラットが激しく回
転して大ケガをする
恐れがあります。

5. シャッターカバーの取付

ブラケットを止めているボルトを一旦はずし、シャッター
カバー取付板が垂直になるようにM6ボルトでブラケ
ットと共締めした後、シャッターカバーを取り付けます。

シャッターカバー取付板

シャッターカバー



注意

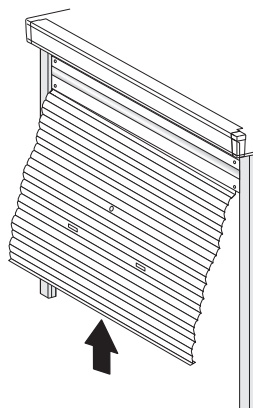
シャッターカバーを付けないと、
スラット巻上げ時にアテとなる
ものがない為危険です。

7. シャッターの巻き上げ

巻取部を手で回しながらゆっくりとシャッターを巻上
げます。この時、ガイド部にスラットが引っかかるの
で、内側から押しながら巻き上げてください。

※巻き上げるに従いバネによ
る巻上げが強くなりますの
で、かならず二人以上で作
業してください。

※シャッターが片寄らないよう
に(シャッターとブラケットと
のスキマが左右均一になる
ように)木片等で調整しな
がら巻き上げてください。



内観図

ブラケット

シャッター

ブラケットとのスキマ

柱前

巻取部

断面図

ガイド部

引っかから
ないように
押す

9. シャッターカバーの取り外し

組立順序の関係上、一旦シャッターカバーを取り外し
ます。その後、本体組立説明書に従って、本体の組み
立てを続けてください。

※必ず8.シャッターの固定で
ビスが水切りを固定している
ことを確認した上でシャッター
カバーを取り外してください。

シャッターカバー

※電動シャッターの場合

- ・ワイヤー固定金具を取り外し、
本体の組立を行ってください。
- ・電動モードになっていることを
確認し、リミット設定を行なっ
てください。
(電動モードでは手動で
シャッターが動かなくなります。)

電動モード

手動モード

